



FEDERATION INTERNATIONALE DE SKI
INTERNATIONAL SKI FEDERATION
INTERNATIONALER SKI VERBAND

国際スキー連盟

ノルディックコンバインド

**INTERNATIONAL
SKI COMPETITION RULES**

(ICR)

国際スキー競技規則

APPROVED BY THE 48th INTERNATIONAL SKI CONGRESS,
KANGWONLAND (KOR)

第2部 ノルディックコンバインド競技共通規則
(Joint Regulations for Nordic Combined Competitions)

500 組織 (Organisation)

501 競技委員会と役員 (The Competition Committee and Officials)

501.1 競技委員会のメンバー (Members)

- 競技委員長
- コンペティションセクレタリー
- ジャンプ台係長
- 飛距離判定係長
- 計算係長
- コース係長
- 計時係長
- スタジアム及び競技管理係長
- 警備係長
- 技術施設係長
- 設備係長
- 救急係長

特別な必要がある時は競技委員会にメンバーを追加出来る。

501.2 役員と任務 (The Officials and their Duties)

501.2.1 競技委員長 (The Chief of Competition)

競技委員長は、競技会の管理運営、技術に関する全ての準備に責任を持つ。全ての役員の果たすべき役目を指導し、その実行を管理、監督する。技術代表 (TD) 及びレースディレクター (RD) と調整しながらチームキャプテンミーティングの議長を務める。公式練習及び競技会の間、ジュリーの任務として技術面を指導する。

501.2.2 コンペティションセクレタリー (The Competition Secretary)

コンペティションセクレタリーは、競技会に関連する全ての管理運営的、秘書的業務の責任を持つ。スタートリスト、成績表、チームキャプテンミーティング議事録、競技会についての情報掲示などの全ての諸用紙、リスト、スケジュールを他の役員のために準備する任務を負う。競技会から生ずる抗議を受領し、ジュリーの秘書として働く。

501.2.3 ジャンプ台係長 (The Chief of Hill)

ジャンプ台係長は、ジャンプ台の整備に責任を持つ。ジャンプ台係長はインラン係長及び着地区域係長の業務を調整し管理する。練習及び競技中は、競技委員長と常に密接な連絡をとり、ジャンプ台の状況について常に競技委員長に報告する。

501.2.4 スターター (The Starter)

スターターは、全ての選手が指定されたスタート地点より正しい順番で指定されたスタート時間内に出発させる責任がある。選手がスタート方法のルールに違反した場合、スターターは即、ジュリーに報告しなければならない。オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会については、加えてスタート審判が配置される。スタート審判は、スタート方法が正しく行われたかどうかを監督し、あらゆる違反を管理する。スタート審判はスタート区域に許可されていない者がいないことを確認する。スタート審判は、スターター及びその助手に対し命令する権限を持つ。

501.2.5 インラン係長 (The Chief of the Inrun)

インラン係長は、テイクオフとインランの整備に責任を持つ。(機械で又は手動で) 整備されたインラントラックが高水準であることを保証し、また、激しい雪などの特別な状況で助走トラックを清掃するための十分な用具を確保しておくものとする。

競技中、インラン係長はインランの全長にわたって監視し管理する。転倒又はインランでの障害が発生した場合、ジュリーは選手の再スタートの可否を決定するためにインラン係長の報告を参考にする。自動スタート信号が設置されていないジャンプ台では、インラン係長はジャンプ台が開いていることを知らせるためにテイクオフに助手を配置しなければならない。当該助手がジャンプ台を開ける合図を競技委員長から受ける。

501.2.6 着地区域係長 (The Chief of Landing Area)

着地区域係長は、着地斜面及びアウトラン区域を適切なスキー (アルペン用スキー) で人力により踏み固めて手入れし、又は機械用具により整備する責任を持つ。

501.2.7 フォージャンパー係長 (The Chief of Forejumpers)

フオージャンパー係長は、競技開始、練習開始の直前及び競技中の全期間を通じてインラン全長を経験に基づいて考査し、調整する責任がある。競技期間中、周りの気象条件が変化した場合、フオージャンパー係長は雪を除去しインラン走路の開放を保たなければならない。フオージャンパー係長は、何人テストジャンパーが必要でどのような場合にテストジャンプを行うかを、ジャンプ台係長、競技委員長と密接な連絡を取りながら決定する。

主催者は毎日、8名の適したフオージャンパーを準備しなければならない。当該ジャンパーは、公式競技に参加する者ではない。全員、ジュリーが設定した競技ラウンドのスタート地点からスタート出来る能力がなければならない。ジュリーは参加外及び予選不通過選手の中から追加のフオージャンパーを指名してもよい。

501. 2. 8 飛距離判定係長 (The Chief Distance Measurer)

この職務の責任は以下のとおりである。

-着地斜面の両側に飛距離表示の正確な設置 (514. 11条)

-ICR規則に従った判定員の配置及び飛距離記録員の配置 (514. 1. 3条)

飛距離判定係長は、飛距離判定員の作業を監督する。飛距離判定員は着地斜面のP点より上に経験の最も浅い判定員、P点から下、K点付近には熟練の判定員が配置されるようにしなければならない。常に飛距離判定員による飛距離の報告や計算係り及びアナウンサーへの伝達を監督しなければならない。

競技の前に、飛距離判定員に採用する判定技術について指示を与えなければならない。各飛距離判定員は、飛距離判定係長から指示を受けるために競技前の練習に立ち会う義務がある。この練習に参加しない場合は、判定員はその競技会の判定員として行動することを許されない。

501. 2. 9 計算係長 (The Chief of Calculations)

計算係長は、競技結果の計算に責任がある。計算係員の協力を得、計算係長は基本的採点データを迅速に収集し素早く正確な計算を行う責任を持つ。計算係長は、計時係長と共に、公式最終リザルトに対する責任を持つ。

501. 2. 10 コース係長 (The Chief of Course)

コース係長は、コースを最良の状態に整備する責任がある。又、雪の状態に応じたコース整備用具の使い方に熟知していなければならない。更に、大会公認コース要件に関する知識も必要である。

コース係長には、スキーテストエリアやウォームアップコース、コースのマーキングやフェンス、気温計、救護所を示す標識及び給食所を整備したり、中間計時用設備を準備したりする責任もある。

コース係長は、コース整備グループ及び前走者に指示を与え、コースを最良の状態に整えさせる。又、最終選手の通過後、コース閉鎖係2名又は車両1台をコース周りに配置するものとする。

501. 2. 11 計時係長 (The Chief of Timekeeping)

計時係長は、計時エリアにおける役員の作業を指示し、調整する責任がある。計時係長は、手動計時係、電子計時係、中間計時係及び計算係の作業を監督する。又、スターターやフィニッシュ審判、及びフィニッシュコントローラーによる作業の調整もスタジアム係長と共に担当する。更に、計時係長は、データ処理作業を監督したり、トランスポンダーの配布や回収を支援したりする。

501. 2. 12 スタジアム及び競技管理係長 (The Chief of Stadium and Competition control)

スタジアム及び競技管理係長は、スタジアム内におけるあらゆる活動とコース周りのコントローラーに対する責任を有する。具体的には、スタート地点への選手の誘導、スキーマーキング、フィニッシュ地点におけるスキーマーキングの管理、フィニッシュエリアからの選手の誘導などを担当する。

又、スタジアム及び競技管理係長は、スタジアムにフェンスやコースマーキング及び標識を設置したり、スタートラインやフィニッシュラインの設置について計時係長と調整したりする責任がある。

コントローラーの適切な配置については、競技委員長及び技術代表と相談して決定する。各コントローラーへの担当業務の連絡や、コントロールカードその他必要書類の配布、及び担当場所への配置も、スタジアム及び競技管理係長が行うものとする。競技会終了後、スタジアム及び競技管理係長は、あらゆる必要情報及びコントロールカードを集め、競技中に発生した出来事についてジュリーに報告するものとする。

スタジアムへの効率的なアクセス方法や、選手、コーチ、係員、及びマスコミの管理については、管理及び競技会セキュリティ係長と調整をはかるものとする。

501. 2. 13 警備係長 (The Chief of Security)

警備係長は、競技運営に関係のない人々を規定のエリアや区域から安全な距離に引き離して選手や競技役員、ア kredィテーションを受けたその他の役員の仕事を妨げないようにする責任がある。また、許可されていない者を規定のエリアや区域に入出入りさせないようにする。

警備係長は、自らの活動内容について、スタジアム係長やジャンプ台係長及びコース係長と調整を行う。オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ワールドカップ大会及びジュニア世界選手権大会では、警備係長は、コース内やコース沿い、チーム準備エリア及びスタジアム内のセキュリティ及びこれらへのアクセスに対する責任を有する。

501.2.14 技術施設係長 (The Chief of Technical Facilities)

技術施設係長は、競技会で使用される全ての技術的システム及び装置の管理と正常な機能に責任を持つ。技術施設係長は、以下の装置が正常に機能することを確認しなければならない。

-飛距離, インラン速度, 風速を測定し表示する装置。

-内線電話又は無線通信回線。

-各選手のスタート番号、飛距離、飛型点、総合得点を表示する電光掲示版。

-スタートとフィニッシュに関連する機器

-競技エリアでの拡声器

-人工インランクーリングの全システム

501.2.15 設備係長 (The Chief of Equipment)

設備係長は、競技委員長に適切な設備及び競技を補佐するためのアイテムを提供する責任を持つ。設備係長は競技会中に適切に設備、用具が用意されていることを確実にするために競技前に、競技委員長と密接に打合せを行わなければならない。

501.2.16 救急係長 (The Chief of Medical and Rescue Services)

救急係長は、公式練習及び競技会の期間中に選手、観客、役員などの負傷者の応急処置に責任を持つ。救急係長はまた、医療機関への緊急輸送手順を構築しておかななければならない。責任の中には公式練習と競技期間中に（ジャンプ台及びクロスカントリーエリアに）適切な医療チームと必要な医療設備が準備されるようにしなければならない。医療支援要件の詳細は、メディカルルールやガイドラインが含まれているFISメディカルガイドの第1章に記載される。

502 ジュリー及び競技運営 (The Jury and Competition Management)

502.1 ジュリー (The Jury)

502.1.1 ジュリーは以下のメンバーにより構成される。

-技術代表 (TD) 議長として

-競技委員長

-技術代表アシスタント

502.1.2 ジュリーの責務 (The Duties of the Jury)

ジュリーは、公式練習を含めた競技全体が、ICR規則に従って正しく組織、運営されることを確保しなければならない。

ジュリーは、競技会の延期、中断、又は中止にするか否かを決定しなければならない。又、競技中に発生した全ての抗議、失格、制裁、疑問でICR規則規程で判断できないものや、遅刻エントリーのチェックや承認について決定しなくてはならない。

502.1.2.1 スキージャンプの責務 (Duties for Ski Jumping)

選手がスタートすべき最大インラン長を決定する。インランの長さは、ジャンプ台の機能が最大に使われるように決定されなければならない。競技会においてジュリーは、設定されたヒルサイズ (HS)の95%に達したらそのラウンドのジャンプをそのまま続行するかどうかを、検討しなければならない。ジュリーは進行中のラウンドをそのままのインラン速度で続行するか、中止してより低いスタート位置から再開するかどうかを決定しなければならない。

飛距離が短かすぎる場合は、ラウンドを中止して無効にすることができ、より高いスタートゲートから再開することができる。

選手をスタートさせる風の状況（速度）を決定する。

不可抗力によりスタート地点への到着が遅れた選手のスタート順について、又は妨害を受けた選手の再ジャンプに関しての決定。ジュリーが直ちに決定することができない場合には、暫定的にジャンプ又は再ジャンプを許可することが出来る。この決定は観客にアナウンスされなければならない。

502.1.2.2 クロスカントリーの責務 (Duties for Cross Country)

コース上の最も寒い地点で測定した気温がマイナス20℃を下回る場合、ジュリーは競技会を延期又は中止できる。

降雪不足で大会公認コースが使用できない場合、クロスカンントリージュリーは、代替コースの点検及び承認をする。

502. 1. 3 ジュリーの決定 (Decisions of Jury)

ジュリーの決定は全て公開投票で行われ、その決定事項議事録は行われた決定全てについて作成されなければならない。各ジュリーメンバーは、それぞれが1票の投票権を持つ。全てのジュリー決定の必要数は、単純過半数とする。各メンバーは以下の例外を除き、(賛成か反対、棄権はできない) 投票しなければならない。

-メンバーが不可抗力により投票を妨げられた場合。

同票数の場合、ジュリーメンバーの議長が決定票を投じる。

502. 2 競技運営 (The Competition Management)

502. 2. 1 オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ、サマーグランプリにおける競技運営は以下のメンバーにより構成される。

-FISレースディレクター (RD)

-技術代表 (TD)

-競技委員長

-コース係長

-技術代表アシスタント

-アシスタントレースディレクター

-用品コントローラー

502. 2. 2 コンチネンタルカップにおいて、競技運営は以下のメンバーにより構成される。

-コンチネンタルカップノルディックコンバインドコーディネーター

-技術代表 (TD)

-競技委員長

-コース係長

-技術代表アシスタント

503 ジュリー及び競技運営を務めるFIS役員

(FIS Officials for Jury and Competition Management)

503. 1 FIS技術代表 (The FIS Technical Delegate)

503. 1. 1 技術代表は、FISカレンダー (任命条項505条) 記載の全てのノルディックコンバインド競技会について任命される。技術代表は、競技がICRの規則と適切な各カップ規定に従って行われるようにする責任を持つ。オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ、サマーグランプリ、コンチネンタルカップにおいて技術代表は、一般に開催国内スキー連盟のメンバーであってはならないが、FIS理事会はこのルールに対し例外を下すことができる。

技術代表は、ノルディックコンバインド委員会の決定を遵守する義務を有し任命の時点で有効なライセンスを所持していなければならない。

503. 1. 2 要件及び資格 (Requirements and Qualifications)

技術代表の候補者は、役員を支援するという役割について、広範囲なバックグラウンドを持っていなければならない。技術代表はFIS公式言語 (特に英語) のいずれかで明瞭に意思伝達ができなければならない。

技術代表の候補者の各国スキー連盟はノルディックコンバインド委員会の検討に委ねるために候補者の資格を提出しなければならない。新規志願者としての資格を得るには、FISのセミナーに2回連続して参加することが条件となる。この資格試験期間が開始する時点で、候補者は43歳未満でなければならない。ノルディックコンバインド委員会は、各国スキー連盟が候補者に代わって許可申請を提出することが明確な場合にはこの規則の例外を認める。

FIS理事会により承認された技術代表の資格のガイドラインは、技術代表としての資格取得に適用される。技術代表の候補者の資格試験期間中については、技術代表の候補者はその経費の保障を受ける権利はない。

503. 1. 3 試験及びライセンス (Examination and Licence)

資格のための要件を全て満たし、最初のFISセミナーに参加した後、候補者は、試験を受けることができる。

その試験に合格後、候補者は公認手帳 (Pass book) からなるライセンスを受け取る。2回目のセミナーを問題なく終了し、試験に合格すると、その許可証が有効になり、TDバッジが新たな技術代表に渡される。最初の試験から2回目の試験までに、候補者は国内で実地の経験を積んでおかななくてはならない。

- 503.1.4 ライセンスの継続と取り消し (Further Qualification and Revocation)
FISのライセンスを保持するためには技術代表は、2年毎にFISの主催する資格コースを受講しなければならない。正当な理由無しに続けて2年間、技術代表として任命されながらその役割を果たすことができなかつた場合には技術代表のライセンスが取り消される。取り消された資格は所属する各国スキー連盟の審判委員長の推薦レターがFISに届けられ、本人がFISの資格取得コースに参加し、その主任講師が本人がそのコースを終了したとの認定をした後でなければ資格復活と再任命をされることはない。
FIS理事会に承認された継続と取り消しの指針が、技術代表資格取得コースに適用される。
65歳になった技術代表は自動的にFIS技術代表から除名される。
- 503.1.5 技術代表の責務 (The Duties of the Technical Delegate)
- 503.1.5.1 競技前 (Before the Competition)
技術代表は、競技会に先立って組織委員会と連絡を取り、主催者が実施した準備の程度を知る必要がある。技術代表は、予定されている(ジャンプ競技の)公式トレーニングより最低でも1日前に競技会場に到着し、ジャンプ台とクロスカントリーコースの整備状況を確認し、組織面での準備状況を審査する。
技術代表は、(ジャンプ及びクロスカントリーの)大会公認文書を確認する義務がある。主催者は、技術代表による依頼がなくても、ジャンプ台とクロスカントリー競技に関する証明書のコピーを技術代表に提出しなければならない。
技術代表が点検すべき事項には、次が含まれる。
-当該競技会の主催者、宿舎状況、食事、交通手段、メディア向けの準備及び作業状況、チームキャプテンミーティング向けの準備状況が点検されること。
-ジャンプ台。ジャンプ台の整備状況、ジャンプ台の実際のプロフィールと公認証との差異、選手の安全、飛距離判定装置が点検されること。
-競技会の技術的及び組織的計画状況。技術代表は、審判、飛距離判定員、計算係員に関する状況を査定しなければならない。更に、通信ネットワーク(電話や無線装置)、コーチスタンド、スコアボード表示、スタート信号、スタートコントロール、救急体制、観客対策なども点検しなければならない。
-全ての技術的装置の管理
-クロスカントリーコースやスタジアム、(コース)プロフィールチェックやスタジアムのレイアウト、スタート区域及びフィニッシュ区域及びこうしたあらゆる区域のフェンスの管理状況。
-クロスカントリー競技の組織計画に対する技術的チェック(時計、ビデオ管理、フィニッシュ判定写真)
-競技プログラムに関しては、練習時間、チームキャプテンミーティング、競技時間、ドーピングコントロール、用品コントロール、表彰式の次第などに注意して点検しなければならない。
-損害賠償保険の確認(212.2条)
技術代表は、これらの任務を遂行するために必要と思われる支援を組織委員会に要求する権限を持つ。技術代表は、コースをスキーで滑走し、コースの整備状況を判断することができる。
- 503.1.5.2 競技進行中 (During the Competition)
- 503.1.5.2.1 スキージャンプ (Ski Jumping)
技術代表は、競技がICR規則に従って運営されていることを確認する責任がある。技術代表は、競技の進行中はいつでも審判台において競技に注目していなければならない。技術代表は、ジュリーが素早く正確な決定が出来るようにジュリーと直接、通信回線を持っていることが極めて重要である。
技術代表は、ジャンプ競技終了後すぐにリザルトとクロスカントリー競技のスタートリストをチェックしなければならない(グンダーセン方式の場合)。
- 503.1.5.2.2 クロスカントリー (Cross Country)
競技会当日、技術代表は、適切な時間内にクロスカントリーエリアの準備状況について報告を受けるものとする。技術代表は、スタートエリア及びフィニッシュエリアにおけるあらゆる事柄を管理しなければならない。更に、スタート手順を監督し、ジュリーメンバー全員と連絡を取り合わなければならない。マスマスタート方式の場合、技術代表は、クロスカントリー競技終了後直ちにリザルトとジャンプ競技のスタートリストをチェックしなければならない。

- 503.1.5.3 競技終了後 (After the Competition)
 競技終了後直ちに、技術代表は最終ジュリー会議を召集し、競技の結果又は抗議に対する決定を文書化するものとする。技術代表は、競技会終了後10日以内に、当該競技のあらゆる項目に関する報告書をFISノルディックオフィス (CH-3652 Oberhofen) に送付しなければならない。
 この報告書には、指定されている報告書式及び適切な追加コメントを含むものとする。この報告書には、組織員会の準備に関する考案、ジャンプ台及びコースの整備状況、競技会の総合評価、公式最終成績、全ての会議の議事録とジュリー会議の決定事項などが含まれていなければならない。オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会及びジュニア世界選手権大会の場合、この報告書はFIS理事会にも提出しなければならない。
- 503.2 レースディレクター (RD) (FIS Race Director)
 FISが最も高いカテゴリーの大会にこの役員を指名する。(502.2.1条参照)
 レースディレクターは、ノルディックコンバインドTDライセンスを所有していなければならない。
- 503.2.1 レースディレクターの責務は以下を含む：
 -国際スキー連盟の利益を代表する。
 -インスペクションの予定を立てかつ行う。
 -主催契約の全ての面において正しく実行されているか監督する。
 -FISの規則及びガイドラインに沿って大会が正しく運営されているかを監視し、ノルディックコンバインドの長及び技術委員会へ報告する。
 -関係団体全員の調整の責任を負う。
 -延期及びキャンセル後の大会の代替に関する決定の調整
 レースディレクターはこれらの任務を満たすために必要と思われる支援を組織委員会に要求する権限を持つ。
- 503.3 技術代表アシスタント (TD-Assistant)
- 503.3.1 技術代表アシスタントはノルディックコンバインド競技TDライセンスを所有していなければならない。更に、技術代表アシスタントはスキージャンプ競技において以下の特別な職務の責任を持つ。
 -競技施設 (選手エリア、リフト、ウォームアップエリア、スタートエリア、インラン、テイクオフ、ランディングエリア、アウトラン) を正しくかつ正当に準備する責任。
 -安全に関わる設備 (側面板、フェンス) の点検。
 -コーチとの連絡。
 -関連すると思われるコメントを加えたTDレポート様式の完成。
- 503.3.2 クロスカントリー競技の場合は、以下の特別な職務の責任を持つ。
 -コース測定をチェックし、技術代表報告書に従ってコースプロフィールに記載されているコースの構造や諸機能を管理したり、スタートエリア及びフィニッシュエリアの設置を管理したりする。
 -スタートリストやスキーマーキング関連業務及びスタート手順を管理する。
 -競技中、コースの規定された部分を管理する。
 -コントローラーから回収したコントロールカードを評価する。
 -競技用具や商業マーキングを管理する。
 -これ以外にも、ジュリーから割り当てられたあらゆる業務を執り行う。
- 503.4 レースディレクターアシスタント (RD-Assistant)
 FISが最も高いカテゴリーの大会にこの役員を指名する。(502.2.1条参照)。
 RDアシスタントはノルディックコンバインドTDライセンスを所有していなければならない。
 RDが特別な任務に対しRDアシスタントを指名する。更に、RDアシスタントは以下の特別な職務の責任を持つ。
 -インランスピード測定及び風速測定の技術システムの配置。
 -スキージャンプ及びクロスカントリーのための技術システムの監視及び管理
 -スタート方法の調整と指示
 -クロスカントリーコースの準備及び主なデータの管理

- 503.5 コンチネンタルカップノルディックコンバインドコーディネーター (COC-NC Coordinator)
FISが、COC大会にこの役員を指名する (502. 2. 2条参照)。コンチネンタルカップノルディックコンバインドコーディネーターは、ノルディックコンバインドTDライセンスを所持していなければならない。
- 503.5.1 コンチネンタルカップノルディックコンバインドコーディネーターの責務は以下を含む：
-国際スキー連盟の利益を代表する。
-主催契約の全ての面において正しく実行されているか監督する。
-FISの規則及びガイドラインに沿って大会が正しく運営されているかを監視し、ノルディックコンバインドの長及び技術委員会へ報告する。
-関係団体全員の調整の責任を負う。
-延期及びキャンセル後の大会の代替に関する決定の調整
コンチネンタルカップノルディックコンバインドコーディネーターはこれらの任務を満すために必要と思われる支援を組織委員会に要求する権限を持つ。
- 503.6 用品コントローラー (Equipment Controller)
FISが最も高いカテゴリーの大会にこの役員を指名する。(502. 2. 1条参照)。用品コントローラーはノルディックコンバインドTDライセンスを所有していなければならない。
- 503.6.1 用品コントローラーの責務は以下とする。
-必要な用品コントロール装置の適切な準備と維持に対し責任を負う。
-用品コントロール、違反の記録、ジュリーへの報告。
- 504 競技審判員 (Judges and Referees)**
- 504.1 スキージャンプ (Ski Jumping)
- 504.1.1 飛型審判員 (Jumping Judges)
飛型審判員の職務や教育及び選任については、ICR404条に記載されている。ノルディックコンバインド競技における飛型審判員の選任については、ノルディックコンバインド委員会及びオオフィシャル・ルール・コントロール小委員会が調整を行う。
- 504.1.2 飛距離判定役員 (Distance Measuring officials)
FISカレンダー記載の全てのジャンプ競技会においては、飛距離は飛距離判定員により報告されなければならない。(506. 1. 2.1条)大会に参加する各国スキー連盟は、必要とされる資格を保持し、公式練習の全期間を通じて責務を果たす者を1名、飛距離判定役員として任命することが出来る。外国の飛距離判定員は、任命から発生する経費についてはその支払いを主催者から受けることは出来ない。
- 504.1.2.1 飛距離判定員 (Distance Measurers)
飛距離判定員は、飛距離判定係長により割り当てられた飛距離判定区域に従って、着地斜面の片側の飛距離表示版の後ろの用意された位置に着く。外国人の飛距離判定員が任命された場合には、着地区分P点下からK点までの間の判定区域に配置され、その位置は飛距離判定係長の監視下で行われる抽選 (ドロウ) により決定されなければならない。飛距離判定員のそれぞれの受け持ちの範囲は、以下の範囲を超えてはならない：
60% w まで5 mごと、60% wから80% wまで4 mごと、80%からヒルサイズまで3 mごと。
飛距離判定員は、自分の配置されている判定区域のみについて、明確な責任を持ち自分の周りの人の行動に左右されることなく着地後直ちに、自分の判定区域の着地地点を示し、飛距離記録員に明確にそれを伝える。(514. 1. 3条)。
オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ、サマーグランプリ、コンチネンタルカップでは、ビデオによる飛距離判定が採用される。従って、ビデオによる飛距離判定の対象となる着地区分内に配置されている飛距離判定員は、ビデオによる飛距離判定に技術上の問題が発生した場合にのみ、採用される。このため、判定員の受け持ち区域を10mまで拡大でき、着地斜面から高い所に立たなければならない。更に、着地斜面を横断する表示線を5 mごとに敷設しなければならない。
- 504.1.2.2 飛距離記録員 (The Distance Recorder)
飛距離記録員は、着地斜面の飛距離判定員の反対側の適切な位置に就くが、距離の報告を受け易いような位置が与えられる。飛距離記録員は、飛距離判定員から示された飛距離を正確に記録し、報告することに責任を持つ。競技会の終了時に飛距離記録員は、計算係りによる処理と最終確認のために飛距離記録表の原本をコンペティションセクレタリーに渡す。

- 504.2 クロスカントリー (Cross-Country)
- 504.2.1 クロスカントリースタート係 (Start official Cross-Country)
 スターターは、全選手が正しい時間にスタートできるように、すべての必須条件が満たされていることを確認しなくてはならない。
- 504.2.2 フィニッシュ審判 (Finish Referee)
 フィニッシュ審判は、選手がフィニッシュラインを通過する順番のリスト及びボイスレコーダー (ディクタホン) を保持する責任がある。フィニッシュ審判は、このリストとテープを計時係長に提出する。
- 504.2.3 フィニッシュコントローラー (Finish Controller)
 フィニッシュラインの8m ~ 10m後にコントロールラインを引き、「スキーコントロール」と表示する。フィニッシュコントローラーは、このコントロールラインで選手をチェックし、マークをつけたスキー板の少なくとも一方がフィニッシュラインを通過したことを確認する。選手は、コントロールラインより手前でスキー板を外してはならない (206.5条)。
- 505 競技役員の選任及び費用の払戻
 (Nomination and Reimbursement of Competition Officials)**
- 505.1 選任 (Nominations)
 FISは、国際ノルディックコンバインド競技会に一定の役員を任命する。飛型審判員は、親族の参加する競技会への任命は行わない。(祖父母、両親、子供、兄弟、姉妹、夫、妻)
- 505.1.1 オリンピック冬季競技大会 (OWG) 及び世界選手権大会 (WSC)、ジュニア世界選手権大会 (JWSC) OWG及びWSCでは、次の役員が選任される。
 -レースディレクター
 -技術代表
 -技術代表アシスタント
 -レースディレクターアシスタント
 -用品コントローラー
 -飛距離判定係長*
 -飛型審判員*6名
 抽選 (ドロー) に基づき交代で、1度につき5名の任命された飛型審判員は、OWG及びWSCの各ジャンプ競技日に職務に就く。6番目の飛型審判員は、それぞれの競技会又は競技日に、スタート審判として活動する。
- 505.1.2 ジュニア世界選手権大会 (JWSC)
 ジュニア世界選手権大会では、次の役員が選任される。
 -技術代表
 -技術代表アシスタント
 -用品コントローラー
 -飛距離判定係長*
 -飛型審判員5名*
 上記の競技役員全ての任命は、ノルディックコンバインド委員会が提案し、FIS理事会が承認する。任命される飛型審判員は、異なる加盟国内連盟に所属してなければならない。飛型審判員の内1名は、開催国のスキー連盟のメンバーでなければならない。
- 505.1.3 ワールドカップ (WC-NC)、サマーグランプリ (GP-NC)
 -レースディレクター
 -技術代表
 -技術代表アシスタント
 -レースディレクターアシスタント
 -用品コントローラー
 -主催国以外の国出身の飛型審判員4名
 -主催国出身の飛型審判員1名
 ノルディックコンバインド委員会が、大会の技術代表と技術代表アシスタントを個々に任命し、大会において職務に就く飛型審判員を有資格者の中から1名ずつ任命できる4ヶ国を決定する。開催国スキー連盟は、自連盟の有資飛型審判員のリストから残る1名の飛型審判員を任命する。飛型審判員は、オフィシャル・ルール・コントロール小委員会で調整の上任命される。
- 505.1.4 コンチネンタルカップ (COC-NC)
 -技術代表
 -技術代表アシスタント
 -主催国以外の国出身の飛型審判員1名
 -主催国出身の飛型審判員4名

ノルディックコンバインド委員会が、大会の技術代表と技術代表アシスタントを任命する。飛型審判員は、オフィシャル・ルール・コントロール小委員会で調整の上任命される。

505. 1. 5 FIS競技会 (International Nordic Combined Competition (FIS))
-技術代表
技術代表は、ノルディックコンバインド競技委員会が選任する。主催国のスキー連盟は、技術代表アシスタント1名と飛型審判員5名を選任する。
技術代表、技術代表アシスタントと5名の飛型審判員は、指名時に有効なFISライセンスを所有していなければならない。
505. 2 交替要員の任命 (Nomination of Substitutes)
FISにより任命された競技役員が競技会に参加できず、職務を果たせないときは(不可抗力)役員は交替されなければならない。オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ、サマーグランプリ、コンチネンタルカップでは、交替要員の任命はFIS本部により確認されなければならない。
505. 3 費用支払い (Reimbursement of Expenses)
競技会の組織委員会は以下の額の旅費と宿泊費の支払いに責任を持つ。
505. 3. 1 旅費 (Travel Expenses)
-列車については、1等車の運賃
-長距離の場合の航空運賃 (エコノミークラス)
-又は車による旅行には1キロメートルにつき0.7CHFのいずれか。
任命された競技役員は、旅行の前に旅行の手配(列車、航空機、自動車)について、主催者と協議しなければならない。
505. 3. 2 日当 (Daily Allowance)
技術代表及び技術代表アシスタントは、競技会会場までと競技会からの帰途の旅行中の1日につき100CHFを受取る。さらに、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ、サマーグランプリ、コンチネンタルカップ、ジュニア世界選手権大会期間中、1日につき100CHFを受取る。
505. 3. 3 宿泊費 (Accommodation)
大会会場周辺での適切なホテルで部屋と食事を無料で提供。滞在に関しては公式練習と競技日を含め、組織委員会と調整しなければならない。
505. 4 上記の経費の支払いは、以下の競技会及び役員に対して適用される。
505. 4. 1 オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会
-技術代表
-技術代表アシスタント
-アシスタントレースディレクター
-飛距離判定係長
-飛型審判員6名
505. 4. 2 ジュニア世界選手権大会(JWSC)
-技術代表
-技術代表アシスタント
ジュニア世界選手権大会では、ジュニア世界選手権大会ルールに従った支払いが以下について適応される。
-飛距離判定係長
-飛型審判員5名
ビデオ飛距離判定員2名に宿泊を無料で提供しなければならない。
505. 4. 3 ワールドカップ(WCNC)、サマーグランプリ(GP-NC)
-技術代表
-技術代表アシスタント
-アシスタントレースディレクター
-外国人飛型審判員4名
ビデオ飛距離判定員2名に宿泊を無料で提供しなければならない。
505. 4. 4 コンチネンタルカップ
-技術代表
-技術代表アシスタント
-外国人飛型審判員1名
505. 4. 5 FIS大会
-技術代表
505. 4. 6 国際競技会におけるFIS役員の国内からの任命 (National nominations for FIS Officials for International Competitions)
主催者は、国内規定に基づき、少なくとも旅費、大会期間中の食費(3食)及び宿泊費を支払う責任がある。

506 チームキャプテンミーティング (Team Captains' Meeting)

506.1 手順 (Procedure)

各競技会ごとに、チームキャプテンミーティングが開催される。チームキャプテンミーティングは、公式トレーニングの1日前で、なおかつ競技開始前に行われるものとする。チームキャプテンミーティングの日時と場所は、競技プログラムに記載しなければならない(216条)。原則として、参加1チームにつき2名の代表者がチームキャプテンミーティングに参加できる。

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ及びジュニア世界選手権大会では、各参加チームの席順を表示しなければならない。又、オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ及びジュニア世界選手権大会では、英語でチームキャプテンミーティングを行うものとする。補足として翻訳が提供されるべきである。

506.2 議事 (Agenda)

チームキャプテンミーティングでは、議事を配布しなければならない。議事は、コンペティションセクレタリーが競技委員長及び技術代表と協力して作成する。あらゆる国際競技会において、議事日程書には次のような項目が通常含まれる。

- 出席者点呼。
 - 組織委員会メンバーの紹介。
 - ジュリーの紹介。
 - 飛型審判員の紹介及びドロー。
 - 天気予報。
 - 選手のエントリー又はグループ分けの確認。必要な場合にはドロー。
 - 競技エリア (ジャンプ台、スタジアム、コース、スキーマーキング、スタート、フィニッシュ、リレーのためのリレーゾーン、セキュリティ関連、フェンスなど) に関する情報。
 - ジャンプ台及びクロスカントリーコースの整備。
 - トレーニング及び競技プログラム。
 - 用具管理
 - 医療管理。
 - 技術代表からの総合的情報。
 - 主催者からの総合的情報。
 - FISレースディレクター又はFISコーディネーターからの総合的情報。
- チームキャプテンミーティングでは、討議した全議題と推奨項目を記載した議事録を作成しなければならない。

510 ジャンプ台 (The Jumping Hill)

511 ジャンプ台に関する情報 (Information on the Jumping Hills)

511.1 ノルディックコンバインド競技は、ノーマルヒルもしくはラージヒルで行われる。

511.2 ジャンプ台のサイズ別分類 (Classification of the Jumping Hills according to sizes)

ジャンプ台の分類は、L点 (HS) の距離で決定される。ジャンプ台の大きさによる分類は以下の通りである。 :

種 類	HS の距離	w の距離
スモールヒル	—49m	—44m
ミディアムヒル	50m—84m	45m—74m
ノーマルヒル	85m—109m	75m—99m
ラージヒル	110m以上	100m以上
フライングヒル	185m以上	170m以上

アウトランのゼロ点からカンテ先までの垂直高が88mを超えるラージヒルをFISは公認しない。今後新たに2台並列のジャンプ台が建設される場合、ノーマルヒルとラージヒルのHS の距離の差は最低25mなければならない。

511.3 ジャンプ台の設営基準 (Standards for Construction of Jumping Hills)

(ICRスキージャンプ411-414条を抜粋。)

511.4 ジャンプ台に使用する略記号（幾何学的要素）（図1）（The Geometrical Elements for JumpingHill）（Fig. 1）

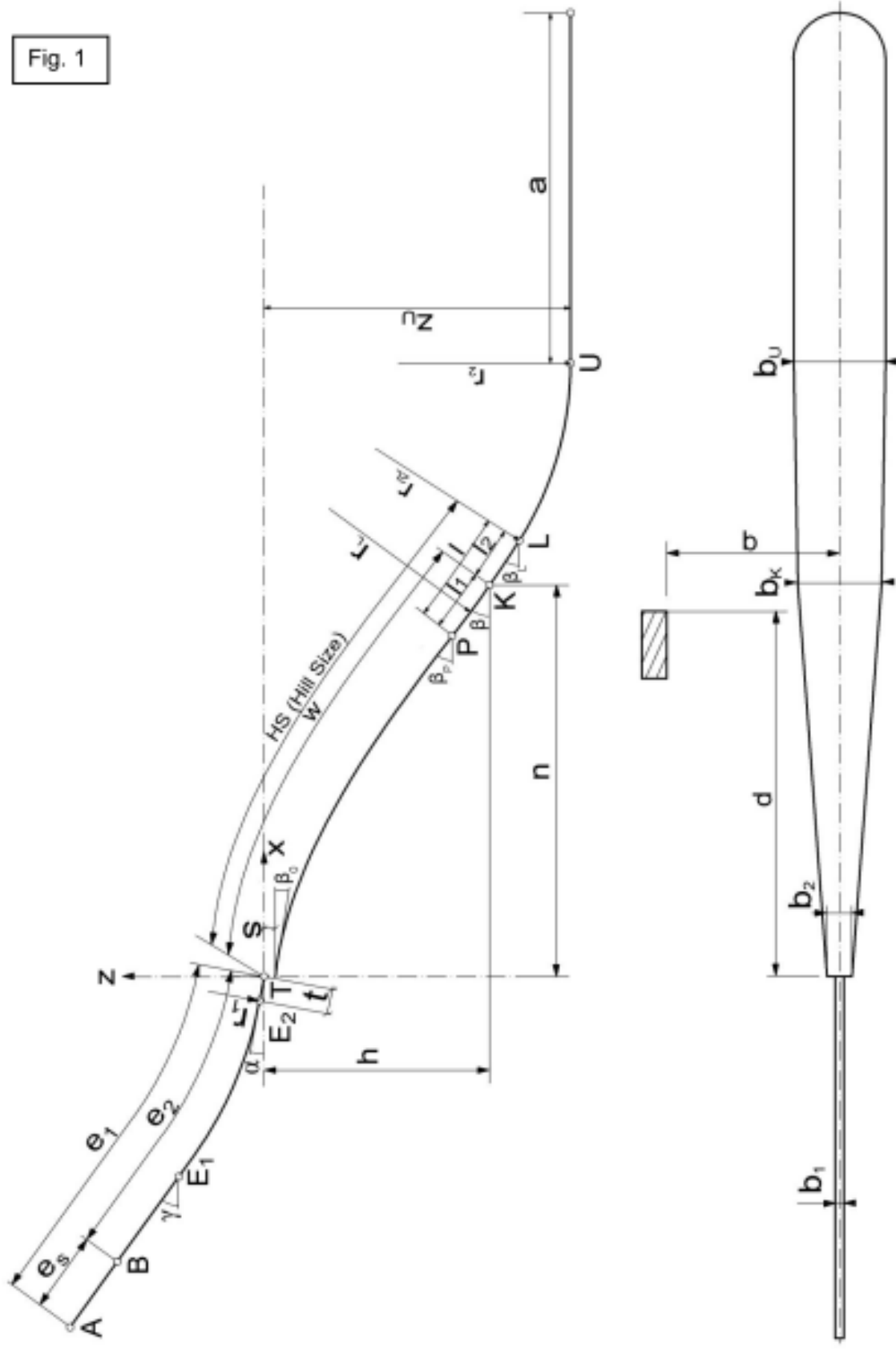
インラン(Inrun)

- A 最上段スタート位置
- B 最下段スタート位置
- E1 曲線半径の始点
- E2 曲線の終点、テークオフの始点
- T テークオフの先端
- e1 インランの最上段スタート位置からテークオフテーブル先端までの距離
- e2 インランの最下段スタート位置からテークオフテーブル先端までの距離
- es スタート位置区域の長さ
- t テークオフの長さ
- γ インラン直線区間の斜度
- α テークオフの斜度
- r1 E2点でのインランの曲線の半径

着地区域の形状(Profile of Landing Area)

- T ジャンプ台のテークオフの先端(=座標原点)
- s テークオフの高さ
- P 着地区域の始点
- K 建築基準点
- L 着地区域の終点
- U アウトラン区域の始点、プロフィールの最下点
- HS テークオフの先端から着地区域の終点Lまでの測定距離(ヒルサイズ)
- w テークオフの先端と建築基準点K点間の距離、ICR第415.1条に準じて測定
- h テークオフの先端とK点の高低差
- n テークオフの先端とK点の間の水平距離
- Zu テークオフの先端から最下点Uの高低差
- l1 P-Kカーブの長さ
- l2 K-Lカーブの長さ
- l 着地区域P-Lカーブの長さ
- a アウトランの長さ
- β_o テークオフ底辺とした着地面カーブの接線角度
- β_p P点での接線角度
- β K点での接線角度
- β_L L点での接線角度
- rL 着地斜面の半径P-L
- r2L L点での曲線半径
- r2 U点での曲線半径
- b1 インランの明確な幅
- b2 テークオフの下の幅
- bK K点の整備された幅
- bu r2半径終点及びアウトランの始点の整備された幅

Fig. 1



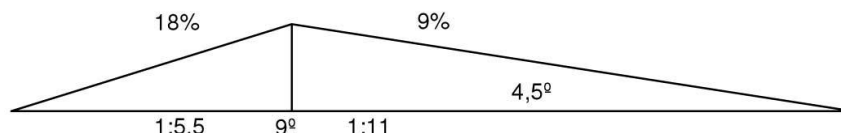
512 クロスカンントリーコースに関する情報
 (Infomation to the Cross-Country Course)
 512.1 コースの分類 (Classification of the courses)

競技形式	競技距離(Km)	コース全長(km)
個人グンダーセン	10	2.0、2.5
マススタート	10	2.0、2.5
団体	4×5	2.5
チームスプリント	2×7.5	1.5

512.2 一般的情報 (General Information)
 ワールドカップでは、最高点 (1800m) を越えるクロスカンントリーコースは、FIS 委員会による承認を受けなければならない。

512.3 クロスカンントリーコースの基準 (Norms for the Cross-Country course)
 クロスカンントリーコースは、選手の資質を技術面、戦術面及び身体面から試験できるように設営しなければならない。コースの難易度は競技会のレベルによって異なるものとする。コースは、単調にならないようにできるだけ自然のままに設営し、なだらかに起伏したうねりのあるエリアやクライムヒルやダウンヒルを含むものとする。
 急激な方向転換や険しい上りを数多くコースに設定しすぎて、選手のリズムが損なわれることがあってはならない。ダウンヒルは、選手の能力を試せるように設置する必要がある。同時に、早雪の状態でもスキーによる滑走が可能なコースにしなければならない。

512.4 競技コース (Competition course)
 原則として、クロスカンントリーコースは次のような構成でなければならない。
 - 斜度が9% (1 : 11) ~ 18% (1 : 5.5) までで、標高差が10mを越えるクライムヒルに定義されるアップヒルと、斜度18%を越える短いクライムヒルを合わせたアップヒルが3分の1。



- 短いクライムヒルやダウンヒル (標高差 1 ~ 9m) のあらゆる地形を活用したうねりや起伏のある地形が3分の1。
 - 多彩なダウンヒル技術を要求するさまざまなダウンヒルが3分の1。
 コースは、競技会用に設定された方向にのみ通行できる。

512.5 クロスカンントリーコースの技術データ (Technical parameters of the Cross-Country courses)

512.5.1 標高差 (HD) (Height Difference)
 競技コースの最低点と最高点間の標高の差 (HD) は、次の数値を越えてはならない。

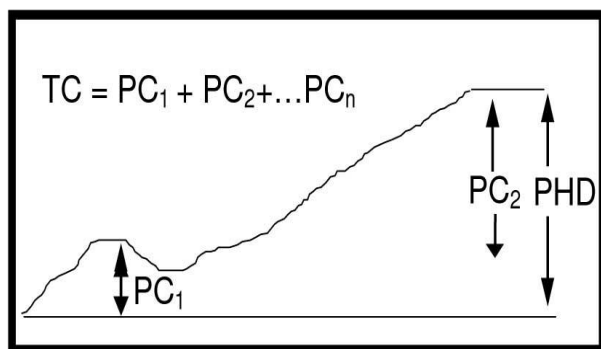
1500m	25m (チームスプリントコース)
2000m	40m
2500m	50m
3750m	60m

512.5.2 極限登高標高差 (MC) (Maximum Climb)
 クライムヒル1カ所の最大標高差 (PHD) は、次の値を越えてはならない。但し、全長200m以下の起伏のある地形部分又は10m以下のダウンヒルをクライムヒルの途中に設けてもよい

1500m	25m (チームスプリントコース)
2000m	40m
2500m	45m
3750m	50m

512. 5. 3 合計登高 (TC) (Total Climb)
 合計登高は、次の範囲に収めなければならない。
 5km 150 ~ 210m
 7.5km 220 ~ 255m (チームスプリントコース)
 10km 250 ~ 400m
 15km 400 ~ 550m

512. 5. 4 アップヒルの詳細 (Description of Uphills)
 アップヒルは、部分標高差 (PHD) で定義される。部分標高差とは、アップヒルの最低点と最高点の標高の差である。又、アップヒルの特徴は、部分登高 (PC) によっても説明できる。部分登高とは、そのアップヒルの合計登高である。すべての部分登高を合計した数値がそのコースの合計登高 (TC) となる。



512. 6 コース設計 (Course Design)
 理想的には、観客がスタジアムで何度も選手の姿を見られるように、何周か周回するコースを設定することが望ましい。
512. 7 公認 (Homologation)
 ノルディックコンバインドクロスカントリーコースとしての公認はICR313条に基づき、ノルディックコンバインド競技委員会が実施する。
- 513 競技エリアの作業環境
 (Working conditions at the Competition areas)
513. 1 ジャンプ台 (At the Jumping Hill)
513. 1. 1 ジャッジタワー (Judges Tower)
 ジャッジタワー内及びその周辺では、次の要件を満たす必要がある。
 -ジュリー及びそれ以外のスタッフ (テレビ、データサービス、技術設備、風速計測システム、情報PC、スタート管理関連の) を収容するのに十分な空間が確保されていること。
 -周囲の環境がわかる状態にあること (窓は必ず開けられるようになっていなければならない)。
 -スタートエリアやテイクオフ及びアウトランを含むランディングエリアが見渡せること。
 -ジャンプ台上のあらゆる重要地点及び役員と連絡が取れること。
 -飛型審判用の仕切りがあること。
 -アナウンサールームがあること。
513. 1. 2 コーチスタンド (Coaches Stand)
 国際競技会では、ジャンプ台関連施設として、選手がジャンプする最初の部分を障害なく見渡せるようなコーチ専用のスタンド (収容人数20名) を設けなければならない。
513. 1. 3 リフト装置 (Mechanical Lift)
 オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会及びワールドカップ (ラージヒル) では、選手のためのリフトが必要である。
513. 1. 4 ウォーミングエリア (Warming Area)
 オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会及びワールドカップでは、インランの近くに20名の選手を収容できるだけの広さの暖房設備のある部屋が必要である。
513. 2 クロスカントリースタジアム (Cross-Country Stadium)
513. 2. 1 オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会及びワールドカップでは、スタートエリアとフィニッシュエリアが良好に設計されているクロスカントリースタジアムを設営しなければならない。
513. 2. 2 スタジアムは、必要に応じてゲートやフェンス、表示つきの区域などで機能別に場所を分割し、管理できるような配置にしなければならない。
 具体的には、次のように設営しなければならない。

-選手は何度でもスタジアムを通り抜けるようになっていなければならない。
-選手や役員、メディア、係員及び観客は、それぞれがいるべきエリアに容易に行けるようになっていなければならない。
-個人スタート、団体スタート、マススタートが行えるだけの十分な広さが確保されていなければならない。又、フィニッシュは必要な長さが確保されていなければならない。

513. 2. 3 選手が、妨害を受けることなく、次のエリアに到達できるようになっていなければならない。

-チーム準備エリア (ワックスキャビン)
-スキーテストエリア及びウォームアップコース
-スキーマーキング、用具管理エリア、トランスポンダーの配布
-ウォームアップ用衣類を保管するロッカー
-スタートエリア
-周回通過エリア及びリレー中継エリア (出口も含む)
-フィニッシュエリア
-フィニッシュライン通過後のスキー管理エリア
-選手休憩所 (着替えや休憩などのためのテント)
-出口

513. 2. 4 競技役員及びジュリーメンバーは、適切な作業環境を確保しなければならない。コーチや役員、メディア及び係員には、スタート及びフィニッシュの進行を妨げずに職務を遂行できるように、スタジアムエリア内に適切な作業区域を設けなければならない。こうした人々のスタジアムへのアクセスは、通行許可によって制限するものとする。

513. 2. 5 ジュリールーム (Jury Room)
オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会及びワールドカップでは、スタジアムのすぐ近くにFIS役員とジュリーメンバーのための作業ルームを設けなければならない。

513. 2. 6 計時ハウス (Timekeeping Building)
計時及び計算は、スタートとフィニッシュがよく見えるハウスで行うものとする。

513. 2. 7 スキーテストエリア (Ski Test Area)
全参加チームが利用できるコースつきスキー滑走テストエリアをスタジアムの近くに設営しなければならない。テストエリアは、チームワックスキャビンやウォームアップコースにも近くなくてはならない。

513. 3 競技エリアの要件 (Requirements for Competition areas)

513. 3. 1 チームエリア及びワックスキャビン (Team areas and wax cabins)
オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ、コンチネンタルカップでは、ジャンプ台及びスタジアムのすぐ近くに電気コンセントを備えたワックスキャビンつきの安全なチーム準備エリアを設けなければならない。

513. 3. 2 医療サービスルーム (Medical Services Room)
メディカルガイドにおける医事委員会の規格を参照のこと。

514 計測機器 (Measuring Devices)

514. 1 スキージャンプ (Ski Jumping)

514. 1. 1 飛距離表示板の設置 (Jumping Distance)

飛距離表示板は、0.5KからHSの着地面の両側に設置されなければならない。飛距離表示板を正確に置くために巻尺を使い、テイクオフ先端の両側からK点までの50%の着地斜面を測定する。(wはmに切り上げる) この測定地点に着地斜面の左右の両側に適切な飛距離表示板を固定する。斜面に沿って1m毎に測定し、飛距離表示板を設置する位置を決める。機械装置 (機械飛距離判定) による飛距離判定では、その機能の有効性についてのジャンプ委員会の承認が必要である。

514. 1. 2 飛距離の定義 (Definition of Jumping Distance)

飛距離とは、テイクオフの先端と着地斜面上の選手が着地した地点までの距離である。着地とは、両足が着地斜面に完全に接触したときに完了したとみなされる。異常着地 (例: 片足だけが斜面に完全に接触し、もう一方の足は空中にある) の場合には、飛距離は最初の足が斜面に完全に平に接触したものを基にして計測する。転倒により両足で雪面に着地しない場合、飛距離は体のいずれの部位が最初に着地斜面に接触したものを基本にして計測する。

着地点は、ジャンパーの両足が着地斜面に接触した正確な場所によって決定する。テレマーク姿勢で着地するジャンパーの場合は、両足の間の中間点が距離計測の対象となる。

着地の際、スキーが雪面に接触しない場合(転倒)は、ジャンパーの身体の一部が最初に着地面と触れた地点までの距離が測定される。

514. 1. 3 飛距離判定員による飛距離の判定 (Measuring of the Jumping Distance by the Distance Measurers)

飛距離判定員は、着地斜面の一方の側に位置し、選手の飛行曲線を着地点まで目で追う。自分の判定範囲にジャンパーが着地した判定員は、0.5mの精度まで飛距離を合図する。飛距離の判定は、判定員の手を飛距離表示板に置くことで示す。もう一方の手を挙げて、0.5mの端数のあることを示す。飛距離表示板は着地斜面の両側に設置し、角度の錯覚によるミスを防ぐ。

514. 1. 4 飛距離記録及び飛距離点計算のために0.5mまでの精度で飛距離を測定し記録する機械装置を使用してもよい。飛距離は、予備のためにも機械装置の故障の場合に備えるためにも飛距離判定員により実際に測定されなければならない。

514. 1. 5 インラン速度測定機 (Inrun Speed)

インラン速度 V_0 の測定機は以下の通りに設置されなければならない。

-測定区間は8m。

-2つ目の光電子ビームはテイクオフ先端手前から10mの位置に設置する。

-光電子ビームは、雪面から0.2mの高さに設置する。

FISカレンダーに掲載されているHS85m以上のジャンプ台では、インラン速度は公式練習から競技を通じて全ての期間中、測定されなければならない。

514. 1. 6 風向風速計 (Wind Velocity and Direction)

測定器は最適飛行曲線の高さに合わせて側面に設置する。データを記録するゲージは平均値ではなくそれぞれの条件を示さなければならない。各瞬間の数値が鮮明にかつ適切な方法によりジャッジタワーの司令室で示されなければならない。

ノーマルヒル及びラージヒルでは3ヶ所(テイクオフの先、K点距離の50%と100%地点)に設置しなければならない。この測定器の他に、ジャンプ台各サイド最低8本ずつの風速用の旗を飛行の高さに合わせて設置しなければならない。

514. 1. 7 スタートの許可とスタート時間コントロール (Start Permission and Start Time Control)

514. 1. 7. 1 3面による方法 (Three phase mode)

オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ、サマーグランプリ及びコンチネンタルカップにおいて、スタート許可及びスタート時間3色(赤、黄、青)の信号と連結したデジタル時計を用いて管理し、その時計はスタートコントロールの間隔調節可能なプログラムにより自動的に作動すること。赤色(スタート準備)では時計は設定タイムからゼロ秒まで進む(カウントダウンする)。赤色は競技の最中、必要に応じてストップすることができる。続く黄色では時計は前に進む。選手は黄色でスタート位置(スタートバー)に着く。難しいコンディションによっては、ジュリーは最短の黄色間隔を設定できる(通例10秒から15秒)。黄色の間隔は10秒から45秒まで可能である。もし、選手をスタートさせる状況でなければ(黄色中に青色にすることが出来なければ)、シグナルは自動的に黄色から赤色に変わる。この場合、選手はスタート位置(スタートバー)を外し、新たにスタートをやり直す。黄色は最短で10秒で青色に変わる。

変わった青色の点滅でスタートが始まり、10秒間点滅でスタートが終了する。10秒以内で選手はスタートし、スタートバーを離れなければならない。信号は自動的に赤色に戻り、次の選手のスタート方法が始まる。黄色と赤色のタイムは信号装置上、別々のディスプレイで鮮明に選手が見えなければならない。

514. 1. 7. 2 2面による方法 (Two phase mode)

FIS大会におけるスタート許可及びスタート時間は、自動でコントロールするライト信号(交通信号)を使用しなければならない。最初5秒間青色が点灯し、次に最小5秒間、最大10秒間点滅する。上記における全体のスタート時間の長さは、最低10秒から最大15秒となり、その後赤色になる。これらの全てのスタート時間の長さは、選手に明確に見えなければならない。スタート時間のカウントダウンも自動式時計で表示されなければならない。競技委員長又は任命されたアシスタントが、スタート時間コントロール装置の責任を持つ。

514. 1. 8 各種距離、角度、温度の計測 (Lengths, Angles, and Temperatures Measurements)

技術代表及び技術代表アシスタントがいつでも現地で測定できるように以下の測定器が備えられていなければならない。

-50m巻尺

- 水準器(デジタル式)
- 数メートルの表裏面平行のまっすぐな角材
- 角度計
- 温度計
- ポケット用メーター尺(最低3m)

これらの測定機器は、技術代表が実際の現在の雪のプロフィール、雪温、気温を測定できるためのものである。

- 514.2 クロスカントリーの計測機器 (Measuring Devices for Cross-Country)
FISカレンダーに記載されているすべての競技会について、電動計時は必ず行わなければならない。電動計時は、バックアップシステムとしての手動計時による補佐を常に伴い、リザルトは両システム間で相互に確認する

- 514.2.1 スタートにおける計時 (Timekeeping-Start)
グンダーセン方式によるスタートは、電動スタートゲートを使わずに行われる。正確なスタートを行うには、大きな表示時計を使用する必要がある。この時計は、最初の選手がスタートした時点でゼロから動き始めるようになっている。同時に、スターターは管理用のもう1つの予備のストップウォッチをスタートさせる。スタートは、明確に表示されたスタートに焦点があてられたHDビデオカメラにより記録されなくてはならない。

(マーキングフィニッシュラインを参照)
オリンピック冬季競技大会、世界選手権、ワールドカップのバックアップシステムとして、追加のトランスポンダーのラインがスタートラインの1.5m先に置かなくてはならない。ジュリーがスタートをチェックする基準時間は1秒である。それは、すべてのフライングスタートがチェック (判別) されなくてはならないことを意味する。

- 514.2.2 中間計時 (Intermediate Time)
中間計時ポイントは、競技会場付近の状況や各コースの長さに応じて設定する。原則として、ラウンドごと、1カ所から2カ所の中間計時ポイントを設けるべきである。

- 514.2.3 フィニッシュにおける計時 (Finish Timing)
タイムは、10分の1秒単位で計測する。100分の1秒単位のタイムは採用しない。手動計時を行う場合は、選手の最初の足がフィニッシュラインを通過した時点でタイムを計測する。

電動計時の場合は、接触部分が遮断された時点でタイムが計測される。光又は光電によるゲートの計測点は、雪面より25cmの高さに設置しなければならない。更に、フィニッシュはビデオカメラで撮影、記録するものとする。1台目のカメラはフィニッシュラインの片端に設置し、フィニッシュの写真を撮影する。もう1台のカメラはスタートビブを確認できる位置に配置する。

- 514.2.4 オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会及びワールドカップでは、正確な着順を記録するために特殊な写真判定カメラ (ラインCCD) を用いなければならない。正確で迅速なリザルト判定を行うには、選手全員が、カメラが設置されている位置、すなわち腿の外側にもう1枚スタートビブを装着する必要がある。スタートビブの数字の高さは最低でも8cmとする。

ラインCCDカメラは、1000分の1秒の精度でフィニッシュラインの通過を記録できるものでなければならない。又、ラインCCDカメラは、競技開始30分前に主要な計時システムと時刻合わせをする必要がある。優勝者のタイムや現在のランニングタイムが表示できれば十分である。

写真判定の場合は、ラインCCDカメラの映像をジュリー用のシステムモニターに呈示し、更にタイムスケールつきでカラー印刷する必要がある。

このシステムはFISによる公認を受けなければならない。

- 514.2.5 写真判定 (Photo-Finish)
機械技術による計測 (ビデオカメラ、ラインCCDカメラ) は、次のような場合に、実際の最終順位を決定する際に用いるものとする。

- フィニッシュタイムが同一の場合。
- フィニッシュ審判間で着順リストに食い違いがある場合。
- 複数の選手がフィニッシュライン通過差を明確に確認できなかった場合。

- 514.3 トランスポンダー計時 (Transponder Timekeeping)
オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ、コンチネンタルカップでは、中間計時ポイントや計時前 (pre-timing) ポイント及びフィニッシュで計測する各選手のレースタイム計時の精度を向上させるため、トランスポンダーシステムが採用される。この計測システムは、レースタイム及び選手の着順の正確性を確実なものとする目的で上述の計時ポイントに設置される。

各選手は、レースの最初から最後まで常に2台のトランスポンダーを身に付けることを要求される。トランスポンダーは、1台ずつそれぞれの脚に、膝よりも下の高さに装着しなければならない。
固定バンドを含めた2台のトランスポンダーの総重量は、50g以下でなければならない。

トランスポンダーシステムは、IEC（国際電子委員会）の規格への適合が義務づけられており、許容範囲を越える妨害電磁波を発生してはならない。

トランスポンダーシステムは、FISの公認を受ける必要がある。

514.4 最新情報施設 (Current Information Facilities)

気温及び雪温を表示する掲示板を設置する。気温及び雪温は、スタート開始の2時間前、1時間前、30分前、スタート時、スタート開始から30分後、及び1時間後に表示するものとする。

温度は、スタジアムエリア及び温度が極端になると推測できる場所（高度が低い場所、高い場所、風のある場所、日陰になっている場所、日があたっている場所）で計測する。

掲示板は、中間計時タイム及び非公式なりザルトの表示に用いるものとする。競技やその他競技会に関する重要情報をアナウンスするために、ラウドスピーカーを使用しなければならない。

選手やトレーナー、観客等に向けて情報を発信する際は、主催者の母国語の他に、最低一カ国語（英語あるいはドイツ語）を用いなければならない。

515 競技エリアの準備 (Preparation of the Competition areas)

515.1 スキージャンプ台 (Ski Jumping Hill)

515.1.1 雪の整備全般 (General Snow Preparation)

公式練習の開始前及び競技期間中全体にわたって、ジャンプ台ーインランの最上段のスタート地点からアウトランの終点までは、要求されている状態に正しく整備されていなければならない。

515.1.2 インラン及びテイクオフの整備 (Requirements for the Inrun and Takeoff)

雪面状態は、雪面が完全に平らでかつ、プロフィール板表示と正確に同じ高さでなければならない。このプロフィールは、最低20 cmの雪深を考慮するべきである。雪を踏み固めることで必要な雪の硬さにする。トラックは以下の寸法に従い、専門的機械（トラックカッター、トラックプレーン（平面）、差し込みプロフィールゲージまたは同様のもの）を使用して整備しなければならない。

-w75m以上のジャンプ台の両トラックの中心線の間隔：30-33 cm

-トラックの幅：13.0-13.5 cm

-トラックの深さ：ノーマルヒル最低2 cm、ラージヒルとフライングヒル最低3 cm

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップにおいては以下の規則が有効となる。

-冬季、インラントラックは人工雪又は氷で整備しなければならない。

-人工雪や氷で整備されたインラントラックは、クーリングシステムによりサポートされなければならない。

-トラックはトラックカッターで作らなければならない。

-雨又は暖気により発生する表面の水分をトラックから排水することを確保しなければならない。

インラン及びテイクオフの整備は、各競技ラウンドの間中、全選手に同じ条件を与えなければならない。降雪、転倒、長い中断のため競技中インランの変更または整備が必要になった場合、競技を再開する前に十分な数のテストジャンプをしなければならない。不十分かつ危険な状態の場合ジュリーは、トライアルジャンパーの内容及び彼らに及ぼす天候の影響を判断基準とする。

テイクオフの長さまたは角度が競技ラウンドの間変更になった場合、そのラウンドをキャンセルし再スタートしなければならない。その日のジャンプ終了時点で、インラントラックをその状態のままにする、または雪を取り除き新たに造るかどうかの判断は、ジュリーの責任である。

515.1.3 着地斜面及びアウトランの整備 (Requirements for the Landing Slope and Outrun)

雪面は、必要な密度と硬度を持つように整備されなければならない。雪の深さは、最低30 cmでなければならない。（プラスチック台は35 cm）

オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ大会開催地においては、整備が絶対必要である。グルーミング（雪面ならし）、パッキング（雪面硬め）は適切なグルーミングマシンを使用して行う。必要な硬度を得るために薬品を使用してもよい。整備した雪面は完全に平らで設計した雪面プロフィールと一致しなければならない。この条件は最初の飛距離表示板からU（移行カーブの終点）までの間で特に重要である。

515. 1. 4 着地斜面上の標識 (The Marking of the Landing Hill)
ヒルサイズ (HS)は、針葉樹の小枝のようなものを使った横断線で着地斜面に標示しなければならない。着地斜面両サイドに、長さほぼ5mの赤色で標示すること。更に着地斜面両サイドに、異なる色の標識（バナー：帯状の布）を以下のように設置しなければならない。
-建築基準点 (K)とヒルサイズ (HS)の間： 両サイド 赤のバナー
-K点からP点方向： 両サイド 青のバナー 長さはK点とHS間と同じとする。
-転倒ラインからHS方向： 両サイド 緑のバナー 長さはK点とHS間と同じとする。
飛距離に関して、飛距離判定員、飛型審判員、観客の目安として、またビデオ飛距離判定の目盛りとして、横断線をP点の10m上からヒルサイズ (HS)まで、5m毎に設置する。（例：60m、65m、70m、75m、85m…）ジュリーがさらに必要と判断した場合は、目安を加えることができる。
515. 1. 5 転倒ライン (Fall Line)
アウトランでの転倒ラインの位置を決定するのはジュリーの責任である。決定がなされた後、横断線をペイントまたは針葉樹の小枝で標示しなければならない。原則として転倒ラインは、r 2の終点に置く。
515. 2 クロスカントリーコース (Cross-Country Course)
515. 2. 1 シーズン前の準備 (Pre-Season Preparation)
岩や石、木の根、切り株、低木の茂みなどの障害物は取り除く必要がある。コースは、雪がほんの少ししかなくても競技が行えるように、冬前に準備しなければならない。コース中の排水に問題のある場所は、直しておかなければならない。夏期の準備は、約30cmの雪で競技を実施できるレベルまで行っておく必要がある。ダウンヒルの箇所やカーブに沿って外側を高くする必要のある個所には、特に注意を払わなければならない。
515. 2. 2 雪に関する準備全般 (General Snow Preparation)
コースは、機械装置を使って完全に整備しなければならない。重機を使用する場合は、地面にうねりがでないように、その土地の元々の地形にできるだけ従いながら使用する必要がある。
515. 2. 3 フリーテクニックの準備 (Preparation for Free Technique)
コースの幅は、推奨値である6 ~ 8mまでの間とする。コースは、選手が障害なくスキーで滑走し、通過できるように整備しなければならない。スキー跡が通路を横断する斜面では、良好に整備できるだけの十分な幅を確保するものとする。
515. 2. 4 マススタートの準備 (Preparation for Mass start)
スタートから最初の30m ~ 50mまでの区間には、幅が平行なコースを設営する。各選手はこのコースから逸れて滑走すること及びこのコース内でスケータイング走法を行うことを禁止される。（平行区間を除く）次の50m ~ 100mまでの区間は、コースの幅が通常の6m ~ 8mに狭まるまでじょうご状に設営するものとする。コース中に幅の狭い場所がないようにしなければならない。
515. 2. 5 トレーニングの準備 (Preparation for Training)
コースは、公式トレーニング開始前に、kmを表す距離表示その他の表示が正しく行われ、整備が完了した状態になっていなければならない。テストコースも、競技コースと同じ整備状態でなければならない。
515. 2. 6 化学薬品の使用 (Employment of Chemical)
雪面の滑りをよくする目的での人工的手段は、いかなるものであれ使用を禁止されている。特別な事情がある場合、雪面を固化させる目的での化学薬品の使用は認められる。
515. 2. 7 スタートエリア (Start Area)
スタートは地形に沿って整備を行い、スタートから最初の100m ~ 200mまでのコース幅は6m ~ 9mとする。正確なスタートを実施するには、大きなデジタル時計及びスタートレーンごとのスタートナンバーやスタート時間を表示するボードが必要である。時計は、最初の選手がスタートした時点でゼロからスタートする。同時に、スターターは管理用のもう1つのストップウォッチをスタートさせる。もう1名のアシスタントは、レーンスタートボードを管理し、スタートした選手の氏名に棒線をひいて消す作業を担当する。
515. 2. 8 個人グンダーセン競技 (Individual Gundersen Competition)

スタートは、原則として3名の選手が横に並んでスタートできるように準備するものとする。

515.2.9 マススタート方式 (Mass Start)

マススタート競技のスタートレイアウトは、直線とする。スタートエリアにおけるコースとコースの間の距離は、1.2m ~ 1.5mとする。1つのグループにスタートレーンの数よりも多い選手がいる場合、スタートナンバーの大きい選手から次の列に回すものとする。列と列の間は4m以上とする。スタート手順を公平に実施する目的であれば、地形や雪の状態によって変更を加えることもできる。各選手のは、スタートナンバー1の選手はコース中央、スタートナンバー2の選手は1の選手の右側、スタートナンバー3の選手は1の選手の左側というように位置につく。

515.2.10 グンダーセン競技団体 (Team Gundersen Competition)

スタートは、原則として2名の選手が横に並んでスタートできるように準備するものとする。

515.2.11 リレー中継ゾーン (Relay Exchange Zone)

リレー中継ゾーンは、長さ30mで十分な幅のある長方形の区域で、明確に表示し、ロープで囲うものとする。リレー中継ゾーンは、スタート及びフィニッシュに近い平坦な面或いは軽い上り坂に設置するものとする。

515.2.12 チームスプリント中継ゾーン (Team Sprint Exchange Zone)

チームスプリント中継ゾーンは長さ30~40mの長方形又は同サイズのボックスでなければならず、十分な幅で明確な表示で区切られていなければならない。また、スタート及びフィニッシュ近くのフラット又はなだらかな上りの地形に設置される。(特別ルール543.3条)

515.2.13 コースの表示 (Marking the Course)

コースの表示は、選手がコースを決して迷うことがないように明確に行わなければならない。オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会では、表示の色を定め、コース説明書に記載しなければならない。

515.2.14 kmを表す標識には、コースに沿った現在地までの累積滑走距離を表示しなければならない。オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会及びワールドカップでは、1kmごとに表示を行う必要がある。その他のFIS競技会では、表示はできる限り行うものとする。

515.2.15 コース上の分岐点や交差点は、見やすい標識で明確に表示しなければならない。又、コースの使用されていない箇所には、フェンスを横向きに設置しなければならない。

515.2.16 コースの保護 (Course Protection)

オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会及びワールドカップでは、観客が選手の妨げになるおそれのあるあらゆる場所に、コースの両側にフェンスを設置しなければならない。

515.2.17 フィニッシュエリアの構造 (Structure of Finish Area)

ノルディックコンバインド競技のフィニッシュエリアは、フィニッシュラインまで約100m ~ 150mのできる限り直線的なホームストレッチとフィニッシュライン直前50mのフィニッシュゾーンから構成される。フィニッシュゾーンの開始箇所は色のついたラインで明確に表示する必要がある。フィニッシュゾーンは幅9m以上で、3本の通路に分けられる。この通路は明確に表示され、容易に認識することができ、なおかつ滑走の妨げにならないように設置しなければならない。

515.2.18 フィニッシュラインの表示 (Marking Finish Line)

フィニッシュラインは、幅10cmの色の付いたラインで明確に表示しなければならない。整備済みの雪面よりも下に色つきの厚板 (V字型ボード) を置く方法が望ましい。フィニッシュエリアは、侵入してくるフィニッシュレーンに対して直角に設置しなければならない。

516 観客及び報道関係者向けの情報提供

(Information for Spectators and Press)

516.1 観客への情報提供 (Information for Spectators)

場内放送による情報提供に加えて、選手も観客も電子スコアボードが見れるようになっていなければならない。スコアボードには、選手のスタート番号、飛距離、各飛型審判員の飛型点、総合得点、現在の順位が示されていなければならない。5名の飛型審判員の飛型点は、同時に表示されなければならない。クロスカントリー競技では、電子スコアボードには中間計時タイムとタイム差を含む順位を表示しなければならない。

- 516.2 報道関係者の席 (Stands for Media Representatives)
テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、写真などの関係者のために、最適な作業環境と場所を提供しなければならない。この条件の中には常に、スタートリスト、現在順位、順位の変更などの情報の連続的提供、観戦に最適な場所の提供、上記関係者の仕事に便宜のため障害を受けない機器の設置場所の提供が含まれる。ジャンプ競技会では、ストロボその他の発光装置の使用は選手の動きの妨げとなるため許可されない。
- 520 競技及び選手 (Competition and Competitors)**
- 521 選手の要件 (Requirements of the Competitors)**
- 521.1 年齢組別 (Age Category)
FISジャンプ競技における2つの年齢による組別を定めた。
-競技年の1月1日に20歳までの選手はジュニア。
-ジュニアの年齢制限を越える全ての選手はシニア。
- 521.1.1 オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップでは、全ての選手が組別なしに一つのカテゴリーでスタートすることとする。ジュニア世界選手権大会での年齢規定は以下の通り。ジュニアは、競技が行われる年21歳未満とする。2009年以降の大会におけるジュニアの誕生日は以下のとおり
-2013年大会：1993年及びそれ以降に生まれた選手
-2014年大会：1994年及びそれ以降に生まれた選手
-2015年大会：1995年及びそれ以降に生まれた選手
-2016年大会：1996年及びそれ以降に生まれた選手
-2017年大会：1997年及びそれ以降に生まれた選手
- 521.1.2 その他の国際競技会では、これと別の年齢組別を決定することが出来る。エントリーの形態については、どのような年齢組別があるかを出場者に通知しなければならない。
- 521.1.3 各国スキー連盟がジュニアの選手名をシニアの組でエントリーさせた場合には、シニアの組でスタートすることができる。この組でスタートすることを希望するジュニア選手は、その組にふさわしい技術を持っていないなければならない。
- 521.1.4 資格 (Qualification)
世界選手権に参加するためには、選手は下記の資格基準を満たさなければならない。
- ワールドカップ、コンチネンタルカップ又は他のカップ大会に定期的に参加
- ジュニア世界選手権大会又はユース大会
- 522 エントリー (Entry)**
- 522.1 各国のスキー連盟は、最終エントリー日までに、或いはFIS公式エントリー形式の参加条件に従って、自国の選手を国際競技会にエントリーするものとする。
- 522.2 競技エントリー (Competition Entry)
オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会及びジュニア世界選手権大会では、各参加国は、指定されたチームキャプテンミーティングの2時間前に、自国の参加選手の氏名を記したスターティングオーダーをレースオフィスに提出しなければならない。このエントリー書類には、FISコード、選手の姓名や所属クラブ、誕生日、スターティンググループ又はランキング順位を記載しなければならない。例外的な場合には、ジュリーはエントリーフォーム提出期限を短縮することができる。
- 522.3 チームによるエントリー (Entry by Team)
各参加国によるエントリーは522.2条に従うものとする。最初のトレーニングへの選手名及びポジションのエントリーは、チームキャプテンミーティングの2時間前、又、2回目のトレーニングへのエントリーは最初の競技終了直後、非公式リザルトのアナウンスから15分以内に行わなければならない。例外的な場合には、ジュリーはこれらのエントリー期限を短縮したり、延長したりすることができる。
- 522.4 補欠選手のエントリー及び遅刻エントリー (Entering Reserves and Late Entries)
グンダーセン競技の場合は、ジャンプ競技の開始前であれば、又、マススタート方式の場合は、クロスカンントリー競技の開始前であれば、遅れてエントリーを行っても構わない。
チームエントリーに制限のある国際競技会では、(けがや病気など医者の証明がある場合) 不可抗力によって最初にドロウを行った選手がスタートできない場合で、なおかつジュリーがエントリーを認めた場合に限り、補欠の選手をエントリーすることができる。また、ジュリーは補欠選手がスタートフィールドでスタートする位置についても決定しなければならない。(同じ位置か、ランキングによるか、グループの先頭か、など)

- 523 ドロー (Draw)**
- 523.1 原則 (Principles)
- 523.1.1 国際競技会では、無作為のダブル選択方式を用いてドローを実施する。
- 523.1.2 ジュリーの監督の下で、チームキャプテンミーティングの開始前にドローを実施することもできる。
- 523.2 個人競技 (Individual Competitions)
- 523.2.1 グンダーセン方式 (Gundersen Method)
オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップ及びコンチネンタルカップのジャンプでは、オフィシャルトレーニング、予備競技ラウンド (provisional competition round)、トライアル(trial)、競技ラウンド (competition round)のスターティングオーダーは、現時点でのカップスタンディング順位の逆の順番を基本とする。カップスタンディングで無得点の選手については、得点がある選手の前のグループでドローを行う。
ジュニア世界選手権大会の場合、ドローはジャンプについてのみ行われる。グループのスタート順は、I、II、III、IVとなる。
- 523.2.2 マススタート (Mass start)
マススタートにおけるスタート順は、現時点でのワールドカップスタンディングを基本とする。つまり、ランキングリストのトップにいる選手がスタートナンバー1となる。ポイントのない選手については、全スタート選手の最後にグループでドローが行われる。
- 523.2.3 FIS競技会 (FIS Competitions)
ランキングリストのない競技会では、スタート順はドローで決定する。ジュリーは、参加選手の総数に基づいて、グループの数と1グループにおける参加1カ国あたりの選手数を決定する。
- 523.3 団体競技 (Team Competitions)
- 523.3.1 オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップでは、グンダーセンの団体競技のスタート順は、現時点でのネーションズカップスタンディングの逆の順番を基本とする。同じポイントスタンディングの場合、チームキャプテンミーティング時に同じ順位のチーム同士でドローを行い、スタート順を決める。ネーションズカップポイントやネーションズカップランキングがないチームは、競技の最初にスタートする。スタートオーダーはドローによって決められなければならない。
ジュニア世界選手権大会の場合、スタート順は、前回のジュニア世界選手権大会の順位の逆の順番になる。
- 523.3.2 FIS競技会 (FIS Competitions)
スタート順位は、ドロー又は特別規則によって決定される。
- 524 競技前のトレーニング (Training before the Competitions)**
- 524.1 スキージャンプ (Ski Jumping)
- 524.1.1 競技会前のジャンプ台での練習 (公式練習) は、組織委員会が日程に組み込まねばならず、それを確認するのはジュリーの責任である。開催期間中の自己責任の下、及びコーチの指導による独立して行われる追加練習 (自由練習) は禁止である。
- 524.1.2 競技会の公式練習には、登録された選手及び競技委員長により任命されたフォージャンパーのみが参加できる。オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、カップ競技会では、公式練習に参加できる権利は、実際の規則と規定に基づく。
- 524.1.3 FIS国際競技会では、最低1日はジャンプ台が公式練習に用意されなければならない。オリンピック冬季競技大会と世界選手権大会では、競技の前に3日間、公式練習用にジャンプ台が準備されていなければならない。競技委員会は、公式練習の日程を決定する際、雪と気象条件を考慮に入れなければならない。競技委員会は、全ての選手に最適な練習条件を提供しなければならない。
- 524.1.4 できれば公式練習時間は、競技日と同じ時間帯に予定しなければならない。練習日のスケジュールと変更がある場合の変更事項は、なるべく早く通知されなければならない。
- 524.1.5 全ての公式練習日程に対して、ジャンプ台は良好コンディションで競技のときの条件のように整備されていなければならない。十分な数の役員とジャンプ台整備員が公式練習期間中にも出ていなければならない。
- 524.1.6 公式練習全期間中に、飛距離を注意して見守り、インランの最大距離を決定し、ジュリーの確認を得る。
- 524.1.7 公式練習全期間中も、必要な医療を施すため、救急班が現場待機していなければならない。

524. 1. 8 オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会の場合、機会の公平性を確保するために、トレーニング初日前の14日間は、トレーニング及び競技を目的としたジャンプ台への立ち入りを禁止するものとする。
競技日程は、上述の条項に従って全3日間のトレーニングを最初の競技に先立って最初に使用されるジャンプ台で行い、続いて2回目の競技に向けて同じジャンプ台でのトレーニングを追加する形で予定を組むものとする。2回目のジャンプ競技に先立って新たなジャンプ台でトレーニングを行う場合の日程についても、同じ条件を適用するものとする。
524. 2 クロスカントリー (Cross-Country)
選手は、競技本番と同じ条件でレースコースでトレーニングを行ったり、レースコースを点検したりする機会を与えられるものとする。可能な場合には、コースは競技2日前には開放しなければならない。例外的な場合、ジュリーはコース中の一定の区域について、或いは一定の時間内、閉鎖したり、選手の立ち入りを制限したりできる。
- 525 競技の実施 (Competition Realization)**
525. 1 スキージャンプ (Ski Jumping)
525. 1. 1 ジャンプの回数 (Number of Jumps)
マススタート (採点対象となるジャンプを2ラウンド) を除いて、すべての競技会はジャンプを1ラウンド行う。この1ラウンドの成績は、グンダーセン方式の場合はタイム差に換算する際の基本となる。競技プログラムには、トライアルジャンプ1回を含むものとする。トライアルジャンプを行うか否かは、選手が決定する。
525. 1. 2 ジュリーは、使用されるインランの長さ (スタート位置) を決定しなければならない。
使用するスタートが多数決で決まったら、そのスタート位置はラウンドが中断されて再競技が行われなくなる限り、競技ラウンドの間を通して変更されてはならない。ジュリーの決定したスタート位置より長いインラン (高いスタート位置) を使用することは許されない。
オリンピック冬季競技大会、世界選手権大会、ワールドカップでは、ジュリーは同じ競技ラウンド内でインランゲートを変更することが認められる。いわゆる“ウィンド・ゲート補正システム”が使用された場合に限り、インラン変更の決定はジュリー全員の決定に基づかなければならない。
いわゆるウィンド・ゲート補正システムが整っている場合、ジュリーは安全と公平を第一に競技ラウンド内でもインランの長さを変更できる。
525. 1. 3 選手はスキーポールやその他の加速用具を使用することはできない。外部からの助力を受けることも禁止されている。この規則に違反すると、選手は失格となる。
525. 1. 4 ジャンプ台及び役員準備が整ったら、競技委員長またはジュリーより指示を受けたアシスタント (1名) は審判台から、各選手にスタートの信号を送る。スタート管理の正確なスタート時間を指示するための信号は、1回以上送ってはならない。
525. 1. 5 スタート信号は、シグナルに青が点灯したことで確認される。このような信号機が使用できない場合は、テイクオフにいるスタート管理役員による旗でジャンプ台が開いたという合図を選手にすることが出来る。
525. 1. 6 選手は、次選手へのスタート合図が始まる前に、定められた時間内に自分のジャンプを完全に終了しなければならない。
525. 1. 7 競技委員長は、役員全員の間のコミュニケーションを調整する責任がある。例えば、ジャンプ台係長及びテイクオフやアウトラン、風の計測装置付近に配置されているジャンプ台係長のアシスタントたちと、ジャンプ台に障害物がないことや役員全員の準備が完了していること、又は天候 (風) の状態が良好であることなどを連絡し合う責任がある。
525. 1. 8 スターターは、次の選手のスタート番号とスタート準備完了を競技委員長に報告しなければならない。
525. 1. 9 選手は、自分のスタート番号が呼ばれた時には、スタートの準備が完了していなければならない。選手は、各スタートタイム装置の方法 (3面の場合10秒、2面の場合10秒-15秒) に従い、スタート信号が出てからスタートを切らなくてはならない。選手がスタート時間を過ぎてもスターティングゲートを離れない時は、自動的にジャンプ台をクローズする。(514. 1. 7. 1条、514. 1. 7. 2条参照)
525. 1. 10 スタート時間が表示されている間、自動式カウントダウン表示 (例: プログラム化されたデジタル時計) は、選手に明確に見えるようになっていなければならない。(上述の条項を参照のこと)。

525. 1. 11 選手は、スタート時間内にスタートしなければならない。例えば、天候不安定などの何らかの理由で、スタート時間の途中で中断した場合、スタート方法は再度やり直される。
525. 1. 12 選手は、公式のスタート信号の前にスタートしたり、第三者の合図を待つために故意にスタート準備を遅らせたりしてはならない。スキー、ビンディング、用具、衣服などに問題があるように装ってもそれは許される理由とはならない。これらのいずれの行為も、原則として失格となる。
525. 1. 13 「不可抗力」により妨げられて、スタートに遅れた選手は、ジュリーに上訴（アピール）することが出来る。ジュリーは、その全ての事情報告を受けてその選手にスタート順外で残りの競技に参加を許可することが出来る。
525. 1. 14 再ジャンプ（Repetition of a Jump）
 役員ミス、動物、観客、その他の不可抗力的な理由によりジャンプの途中で妨害された選手は、ジュリーに上訴（アピール）出来る。ジュリーは事実を調査して、再ジャンプを認めるか、上訴（アピール）を却下するかのいずれかを決定する。上記のいずれかの場合、ジュリーは、ジュリーの判断で再ジャンプを認める権利を有する。
525. 1. 15 コンバインドスキージャンプがスペシャルスキージャンプと一緒に実施される場合、コンバインドの選手たちは、別のグループでドローを行う。コンバインドの選手たちはサブグループに分けられる。
525. 1. 16 出来れば、飛型点は各競技者のジャンプ終了後に表示されるべきである。（点数公開）
 得点した飛型点の音声でのアナウンスは禁止される。
525. 2 クロスカントリー（Cross-Country）
525. 2. 1 グンダーセン方式（Gundersen Method）
 グンダーセン方式では、ジャンプ競技の勝者が最初にスタートし、2位の選手はその次にスタートするといった形式で行われる。スタートの間隔は、得点差をタイム差に換算した結果で決まる。スタート時間は、1秒単位まで切り上げられる。
525. 2. 2 マススタート方式（Mass start）
 スタート位置は、ドロー又は現時点でのFISカップランキングリストによって決定される。
525. 2. 2. 1 世界選手権大会及びワールドカップでは、スタート位置は現時点でのワールドカップスタンディングによって決定される。
525. 2. 3 「ウェーブスタート」の指示（Instruction for the Wave Start）
 ジュリーは、「ウェーブスタート」に関する決定と、スタートリストの枠内で適切なスタート時間に関して決定を下す責任がある。ウェーブスタートでは、選手はグループごとに10秒間隔でスタートする。こうしたグループに関する決定は、コースの長さや競技開催地に応じて行う。オリンピック冬季競技会、世界選手権、ワールドカップの場合では、周回遅れとなった選手は失格とする。最終リザルトでは、失格した選手にも順位がつけられ、失格した時点におけるカップポイントが与えられる。
525. 2. 4 コースの秩序と管理のために、次の原則が適用される。
 -スタート5分前から後方のランナーが通過するまで、すべての役員やコーチ、選手以外の人物及びコースへの立ち入りを認められているその他の人物は、コース上をスキーで滑走してはならない。この間、これらの人物はスキー板を履かずにコース脇の決められた場所にいないなければならない。
 -役員やコーチ及びその他の人物は、選手に中間タイムや情報を教える際に、30m以上選手に伴走してはならない。
 -上述の行為の間、役員などは選手の妨げにならないようにしなければならない。
525. 2. 5 レースコース上でのワックステスト及びウォーミングアップは、常に競技コースに関する指示に従って行わなければならない。競技中、スキーをテストするためにコース上で電子計時機器を使用することは禁止されている。
525. 2. 6 日程の延期（Schedule Postponement）
 天候に問題がある場合、ジュリーは競技を延期できる。ジュリーは、本来のスタート時間の30分以上前に延期の判断を下さなければならない。
525. 2. 7 選手は、マークを貼付したスキーを装着した状態で、時間通りにスタートに来る責任がある。
525. 2. 8 選手は、スタートからフィニッシュまで表示されたコースに従って滑走し、すべてのコントローラーを通過しなければならない。選手は、マークが貼付されたスキーを履き、自分自身の推進力だけでコースの全行程を走破しなければならない。ペースメーカーや身体を押しってもらうといった支援を受けることは認められていない。

525. 2. 9 ポールやスキーの交換(Change of Poles ore Skis)
あらゆる競技会において、ポールを交換できる。
用品交換ボックス/ゾーンがコース上で設置されている場合のみ、スキーの一方、もしくは両方を個人戦で交換できる。スキーを交換する際、選手は、だれの助けを借りずに、トラック外で交換しなければならない。
525. 2. 10 競技中におけるスキー板のワックスがけ及びクリーニングは、コースの外側で誰からの手助けも受けない場合に認められている。
525. 2. 11 スタートにおける選手のポジション (Position for a Competitor at the Start)
選手は、スタートライン直前に両足を置き、静止していなければならない。ストックは静止させ、スタートラインの後ろに置くものとする。
525. 2. 12 選手のフライング (Early Start for a Competitor)
的確なスタート時にスタートすることは、選手各自の責任である。明らかにフライングした選手は戻り、再度スタートラインを通過しなければならない。この場合、当該選手のスタート時間はスタートリストの時間となる。
フライングの後、(スタートラインに戻り、) スタートラインを再通過しない選手は失格になる。先に(ラインを)交差した方の靴先端がスタートラインをクロス(交差)すればレースの始まりとなる。はっきりとした証拠を提示するために、適切な装置をスタートを捉えるためにスタートエリアに設置しなくてはならない。
525. 2. 13 選手の遅刻のスタート (Late Start for a Competitor)
遅れてスタートをする選手は、他の選手のスタートを妨げてはならない。
525. 2. 14 他の選手に追いつかれた選手は、表示された区域を除き(525. 2. 17条を参照のこと)、最初に道を譲るようにリクエストされた時点でコースを譲らなければならない。この規則はフリーテクニックコースでも適用され、この場合、追いつかれたスキーヤーに対してスケーティング走法を行うことを制止してもよい。
525. 2. 15 他の選手に追いついた場合、追いついた側の選手は、抜かそうとする選手の行為を妨げてはならない。具体的には、
-追いつかれた選手は、妨げられずに競技を続行することが可能でなければならない。
-追いついた選手は、追いつかれた選手のスキー板を踏んではならない。
-意図的に身体を接触させてはならない。
-ストックは間違った使い方をしてはならない。
追い越しは、追い越しを行う選手の後ろ足が抜かれる側の選手のスキー板の先端より前に出た時点で完了する。
525. 2. 16 リレーの中継(ハンドオフ)は、双方の選手がリレー中継ゾーンにいる間に、到着した選手が次の選手の身体の一部に手を触れた時点で完了する。中継にルール違反があった場合、両選手はリレー中継ゾーンに戻り、中継を正しく行うまで次の選手はスタートできない。次の選手は、呼び出しを受けるまでリレー中継ゾーンに入ることはできない。
525. 2. 17 選手は、コースが表示されているレーンを一旦選択したら、次の選手を追い越すまで、選択したコースから外に出てはならない。
525. 2. 18 外部からの支援を受けずに、身体のすべての部分がフィニッシュラインを通過した時点で、選手は順位づけされる。
525. 2. 19 選手は、競技役員の指示に従わなければならない。又、メディカル規程の全規定を順守しなければならない(221条を参照のこと)。
- 526**
ビブ (Bibs)
526. 1 オリンピック冬季競技大会及び世界選手権大会では、選手は公式トレーニング中(ジャンプ及びクロスカントリー)及び競技中、スタートナンバーを着用しなければならない。
526. 2 ジュニア世界選手権大会やコンチネンタルカップで選手は、公式ジャンプトレーニング中、指定されたスタートナンバーを着用しなければならない。
526. 3 スタートナンバーは、後ろからも前から読めなければならない。スタートナンバーは、いかなる方法であれ、選手の邪魔になってはならない。大きさや形状は競技用品に関する規則に記載されている。スタートナンバーの大きさや形状及び装着方法を変更してはならない。
526. 4 クロスカントリー (Cross-Country)
オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会及びワールドカップにおいて、あらゆる競技形式で用いられる全てのスタートナンバーは、ビブの両端にナンバーを表示しなければならない。
526. 5 脚につけるビブ (Leg Bibs)

オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ及びコンチネンタルカップで、グンダーセン、マススタート、団体競技の最後の選手は、選手の識別とリザルトの照合の為、ナンバーを腿（外側）に装着する。

526.6 団体競技 (Team Competitions)

各グループごとに、団体スタートナンバーの色が異なる（スキージャンプとクロスカントリーでは色は同じ）。オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ジュニア世界選手権大会、ワールドカップ大会コンチネンタルカップでは、スタートナンバーの色は次のようになる。

- 1 グループ = 赤
- 2 グループ = 緑
- 3 グループ = 黄
- 4 グループ = 青

527 リザルトの計算及び公表 (Calculating and Announcement of Results)

527.1 スタート及びリザルトリスト (Start and Result Lists)

すべてのリストは、基本的な情報の構成として次のような項目を含む。

- 競技会の名称
- 競技会の日付と場所
- ジャンプ台の名称とK点及びヒルサイズに関する説明
- コース名及び技術的数値に関する説明
- 標高差 (HD)、極限登高標高差 (MC)、合計登高 (TC)
- 一周の長さ
- 各飛型審判員の氏名と出身国
- 各ジュリーメンバーの氏名と出身国
- 現在の天候に関する情報（雪の状態や温度、風など）
- エントリー選手やスタート選手、フィニッシュ選手、未完走の選手及び失格した選手の人数
- 各選手に関する追記事項
- 順位
- ビブナンバー
- 姓名、出身国及び／又は所属クラブ
- 各ジャンプについては、次の情報を個別に記録するものとする：
 - 飛距離、助走速度、距離点
 - 飛型点
 - ラウンドあたりの合計得点
 - ジャンプ競技終了後の総合得点
 - クロスカントリーについては、クロスカントリーのタイムと順位
 - クロスカントリー競技終了後の計算された得点（マススタートの場合）

527.2 スキージャンプ (Ski Jumping)

527.2.1 トレーニングリストの書式 (Format for Training List)

公式トレーニングリザルトには、上述の一般的な項目に加えて次の項目を記載しなければならない。

インラン速度とその順位、飛距離とその順位、各ラウンドにおけるスタートゲート

527.2.2 スタートリストに関する指示 (Instructions for the Start Lists)

527条を参照のこと。

527.2.3 ファイナルリザルトリスト (Final Result Lists)

527条を参照のこと。

527.2.3.1 飛型点 (Style Points)

まず5名の審判員の採点より始まり、その最高と最低の採点を排除する。残った3つの得点を合計する。これらの得点の合計がそのジャンプの飛型点である。飛型審判員のメモ記録に関する指針は、ICR431条に記載されている。

527.2.3.2 飛距離点 (Distance Points)

飛距離に対する得点は、ジャンプ台の規模により計算される。1 m毎の得点は、ジャンプ台のK点により定められた得点換算表による。

K点距離 1mあたりの得点 (メートル値)

- 20 ~ 24m 4.8点/m
- 25 ~ 29m 4.4点/m
- 30 ~ 34m 4.0点/m
- 35 ~ 39m 3.6点/m
- 40 ~ 44m 3.2点/m
- 45 ~ 59m 2.8点/m

60 ~ 74m 2.4点/m
75 ~ 99m 2.0点/m
100m以上 1.5点/m

ジャンプ台のK点が基準点となる。つまり、K点距離が距離点60点となる。ジャンプ台の1m当たりの点数が決定された後、測定された飛距離との距離差が計算される。K点以下の飛距離は、距離差に1m当たりの点数を掛け、それを60点から差し引く。一方、K点以上の飛距離は距離差に1m当たりの点数を掛け、それを60点に加える。

527.2.3.3 総得点 (Collective point Score)

得点は、飛型点と飛距離点の合計である。

527.2.3.4 総合得点 (Total Point Score)

この得点は、競技ラウンドの総得点を合計したものである。最高得点の選手が優勝者である。

527.2.3.5 同得点 (Identical Scores)

2名以上の選手が同得点である場合は、同順位であることが宣言され、その選手は同順位として表彰される。タイの次の順位は、タイとなった選手の数だけ排除される。最終成績表においては、同順位は選手のスタート番号の逆順に記載される(遅い番号が先にくる)。

527.3 成績の公表 (中間成績) (Announcement of the Results(Intermediate result))

非公式の成績表は、競技終了後直ちに公表されなければならない。計算係長とコンペティションセクレタリーは、非公式成績表を記録表原本と比較して検討する。それから、コンペティションセクレタリーは、ジュリーに承認を求めるために最終成績表を提出する。

ジュリーの下に何らの抗議も提出されなかった場合には、抗議提出期限の後に成績表が中間成績表として公表される。原則として、抗議提出期限は競技終了後15分である。チームキャプテン会議でその期限時間を短縮できる。FISに送付される公式リザルトリストは、ラテン文字で表記しなければならない。

527.3.1 飛型点減点リスト (Style Judges Deduction Point List)

オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会及びワールドカップ、コンチネンタルカップでは、ジャンプの各ラウンドごとに、飛型点の減点に関する追加リストを作成しなければならない。

527.4 クロスカントリー (Cross-Country)

527.4.1 クロスカントリー計算表 (Cross-Country Calculation Table)

選手間のリザルトの差を確定するために、各選手とジャンプ競技勝者又はクロスカントリー競技勝者との得点差又はタイム差を計算する。この計算は、ノルディックコンバインド競技計算表に基づいて行う。タイム又は得点を表す数値は、競技形式に応じて、端数を切り上げる必要がある。

競技コースの長さに応じて、次の計算表を適用する。計算には、小数点以下6位までを用いる。

5 k m コース	1分=15点
10 k m コース	1分=15点
15 k m コース	1分=15点
2×7.5 k m コース	1分=30点
4×5 k m コース	1分=45点

規定距離から外れた場合の換算表は、国内スキー連盟の単独義務となる。

527.5 最終リザルトリスト (Final Result List)

ノルディックコンバインド競技が終了した後、技術代表及び競技委員長はリザルトの正確性を承認するため、公式リザルトリストに署名しなければならない。

- 530 制裁及び抗議 (Sanctions and Protests)**
 以下の531、532、533条は、全競技種別共通規則
 -223条(制裁)
 -224条(手続きガイドライン)
 -225条(上訴委員会)
 の基準に適用しなければならない。
- 531 制裁 (Sanctions)**
- 531.1 一般条件 (General Conditions (223.1条を参照))
- 531.1.1 制裁は次のような場合に課せられる。
 -競技規則違反または不順守
 -224.2条によるジュリーまたは個々のジュリーメンバーからの指示への不従順
 -スポーツマンらしからぬ振る舞い
 違反行為が意図的か意図的でないか、又、違反行為が緊急の事態によって起きたものであるか考慮される。
- 531.1.2 制裁はFISノルディックコンバインド委員会によって課される。
 -不規則又は不公正な判定、審判をし、且つ個人的に不正を行った技術代表又は技術代表アシスタントに対して。
 -意図的に誤った又は不適切な測定を行い、且つ個人的に不正を行った飛距離判定係に対して。
- 531.1.3 スタート不許可 (Not Permitted to Start)
 次の選手は、どのFIS国際スキー競技大会においても、スタートは認められない。
- 531.1.3.1 203条 (FISライセンス) の有資格条件に合わない場合。
- 531.1.3.2 誤ったデータの下に、又は誤ったデータで出場する場合。
- 531.1.3.3 年齢分類の規定に合わない場合 (521.1.1条参照)
- 531.1.3.4 公序良俗に反する名称及びシンボルのついた衣類及び用具を身につけた場合 (206.7条参照)、スタートエリアにおいて、スポーツマンとしてのマナーに反した場合 (205.5条参照)
- 531.1.3.5 用品 (222条参照) 及びコマーシャルマーケティング (207条参照) に関してFIS規則に違反した場合。
- 531.1.3.6 FISが求める健康診断を受けることを拒否した場合 (221.2条参照)
- 531.1.3.7 選手が実際に競技を開始した後に、ジュリーにより規則に違反していると認定された場合、ジュリーは選手を制裁しなければならない。
- 531.2 ペナルティー (Penalties)
 選手は、次のような場合、ジュリーによりペナルティーが課せられる。
- 531.2.1 用具に付ける広告を定めた規則に違反した場合 (207.1条参照)
- 531.2.2 認められていない方法でスタートナンバーを変更した場合 (526.3条参照)。
- 531.2.3 規則に従った公式スタートナンバーを身に着けなかった場合 (526.1、526.2条参照)
- 531.2.4 競技中に選手としての責任の規則に違反又は、スポーツマンらしからぬ振る舞いをした場合 (525.2.16条参照)
- 531.2.5 レッドラインを通過する前にスキーを外した場合 (206.5条参照)
- 531.2.6 公式セレモニーにスキーを持参した場合 (206.6条参照)
- 531.3 失格 (Disqualifications)
 ジュリーが集まり選手の失格の是非を決定しなければならない。(223.3.3条参照) 全ての関連証拠を慎重に考慮し、選手に自己弁護の機会を与えなければならない。(224.7条参照)
 選手は次の場合、失格となる。
- 531.3.1 スタート手順の規則に違反した場合 (525.1.3、525.1.4、525.1.12、525.1.13、514.1.7.1、514.1.7.2、525.2.13条参照)
- 531.3.2 マークされた全コースを走らなかった場合 (525.2.9条参照)
- 531.3.3 スキーマーキング及びトランスポンダーの使用の規則に違反した場合 (525.2.4、514.3条参照)
- 531.3.4 意図的な妨害をした場合
- 531.3.5 失格後、選手の名前は最終リザルトリストに失格者(DSQ)として記録され、この選手のタイムは表示されない。
- 531.3.6 223.3.3条に従い、選手のミスが最終リザルトに有利な結果となる場合にのみ、選手は失格となる。ただし、個々の場合に関し、規則が別の記載をしている場合を除く。
- 532 抗議 (Protests)**
- 532.1 選手のエントリーに関する抗議は、競技会開始前にコンペティションセクレタリーに書面にて届けられなければならない。

- 532.2 競技会中の他の選手あるいは役員に関する抗議は、競技終了後15分以内に、書面にてコンペティションセクレタリーに提出されなければならない。
- 532.2.1 オリンピック及び世界選手権大会では、口頭による抗議は5分以内にジュリーメンバーに提出されなければならない。
- 532.3 成績の計算間違いや成績表のミスプリントに関する抗議は、競技会開催日から1ヶ月以内に、選手の所属国内スキー連盟から競技会組織連盟に書留郵便で送付されたものが考慮の対象となる。間違いが証明された場合には、修正した公式成績表が再発行され、必要な場合は賞が正しく授与される。
- 532.4 ジュリーは、抗議が制限時間内にコンペティションセクレタリーに100CHFの預託金を納めた場合は、それを考慮、審議する。
- 532.5 飛距離判定員が測定する距離及び飛型審判員の飛型点又は、マススタート競技におけるジュリーの採点は、繰り返すことの出来ない実際の事実における主観的決定（いわゆる事実の供述）であるが故に訂正はされない。結果の訂正を目的とするこの主観的決定に対する抗議は、認められない。上記には、変わりやすい風の状況におけるジャンプのスタートコントロール方法に関する抗議も含まれる。

第3部 競技形式に関する特別規定

(Special Regulations for the Competition Formats)

- 540 グンダーセン方式による個人競技 (Individual Gundersen Competition)
- 540.1 競技の実施 (Competition Realisation)
グンダーセン方式による個人競技では、まずジャンプ競技を行い、次にクロスカントリー競技を行う。クロスカントリー競技におけるスタート権を得るには、選手はジャンプ競技のラウンドに出場しなければならない。
- 540.2 計算 (Calculation)
計算は、527.2.3.2条及び527.4.1条に従って、適切な距離 (m) 及び得点の値に基づいて行う。最終リザルトリストでは、必要であれば技術的援助を用いて、順位を確定しなければならない。同タイムでフィニッシュラインに達した選手が複数人いる場合は、写真判定ビデオを用いて、又はフィニッシュ審判が決定を下す (514.2.5条)。技術機器を用いて選手の間に目に見える違いが無いと判断された場合、最終リザルトで同じ順位が与えられる。カップ大会においては、同じポイントが与えられる。
- 540.3 特別規定 (Special Regulation)
スタート時間差が大きくなりすぎるのを防ぐために、ジュリーは「ウェーブスタート」の採用を決定することができる (525.2.3条)。計算の終わった最終リザルトリストにおいて、最終順位における同順位が起きることもある。このような場合の選手の順位は527.2.3.5条に基づくものとする。カップ得点競技会でこうした事態が発生した場合は、次の規則を適用する。すなわち、同位となった選手は同じ得点を獲得したものとし、これに続く順位に対する得点は誰も獲得しないものとする。
- 541 マススタート方式による個人競技 (Individual Mass start Competition)
- 541.1 競技の実施 (Competition Realisation)
マススタート方式の個人競技では、まず最初にマススタートによるクロスカントリー競技を行い、次に2ラウンドのスキージャンプ競技を行う。ジャンプ競技では、飛型点のジャッジ採点は行われず。競技プログラムには、試技1回も含まれる。ジャンプ競技の第1ラウンドは、クロスカントリーのリザルトの逆順で行われる。すなわち、クロスカントリー競技の優勝者は、スキージャンプのスタートナンバーが最後になる。最終ラウンドの選手の数、レース後及びジャンプ競技1本目の後の中間リザルトの30名までに減らされる。
- 541.2 計算 (Calculation)
- 541.2.1 フィニッシュにおけるタイム差は、1秒単位までの値にしてから得点に換算し、1位の選手の獲得点であり基準となる120点から差し引く。採用される有効な得点表については、527.2.3.2条を参照のこと。
マニュアル計算では以下のルールが有効である：
小数点第1位の値は四捨五入し、1秒単位までの値にしてから計算する。
- 541.2.2 ジャンプ競技では、計算した距離点だけを選手の順位決定に採用する。飛型に関する採点は採用しない。転倒及びテレマーク着地の失敗に対するペナルティは次の通りである。
転倒：
-ノーマルヒルの場合のペナルティ = 5m = 10.0点
-ラージヒルの場合のペナルティ = 7m = 10.5点
テレマーク着地の失敗：

- ノーマルヒルの場合のペナルティ=2m=4.0点
- ラージヒルの場合のペナルティ =3m=4.5点
- 541.2.3 テレマーク着地の失敗 (No Telemark landing)
着地とその直後の滑走においてテレマーク姿勢をとらない場合はテレマークが入っていないランディングと判断される
- 541.2.4 転倒 (Fall)
スキー、雪、又はプラスチックの表面へ体の接触は、転倒として減点される。
- 541.2.5 特別な状況で、2本目を終了できない場合、ジュリーは、ジャンプ1本のみで競技を終了する権利を持つ。新しい変換値の計算は、されない。
- 541.2.6 世界選手権大会及びワールドカップでは、この採点を行うために3名の飛型審判員が、ドローで選抜される。
- 541.3 特別規則 (Special Regulations)
ペナルティとしての減点に関する決定は、ジュリーの全員一致で採択されなければならない。テレマーク姿勢による着地の成否、又は転倒が起きたか否かは明確に判断する必要がある。マススタート方式のスタート手順は次の通りである。
-スターターは、スタートエリア内の、すべての選手に容易に自分の合図が聞こえるような位置に立つものとする。
-遅くてもスタートの1分前には、選手に「スタートラインにつけ (Go to the start)」という指示を出さなければならない。その後、選手は「スタートまで30秒 (30 seconds to start)」を知らされる。このとき、スタート時計は目隠しされて選手には見えないようになっており、スターターだけが時計を見られるようになっていいる。スターターは、自分の判断で、音声によるスタート合図又はピストルによる合図を1回行う (あらゆる競技会において、これらの指示は英語で行うものとする)。
-不正スタートは、競技再スタートになる。スターターが、リスタートの合図 (2発目) を送る必要がある。また、選手を戻せるようにトラックの後方の適正な位置にアシスタントを置かなければならない。不正スタートをした選手は、列の最後につく。
- 542 グンダーセン方式による団体競技 (Team Gundersen Competition)**
- 542.1 競技の実施 (Competition Realisation)
グンダーセン方式による団体競技では、まずジャンプ競技を1ラウンド行い、次にリレーによるクロスカントリー競技を行う。オリンピック冬季競技大会や世界選手権大会、ワールドカップ及びジュニア世界選手権大会では、1チームにつき選手4名とする。
- 542.2 計算 (Calculation)
計算は、527.2.3.2条及び527.4.1条に従って、適切な距離 (m) 及び得点の値に基づいて行う。最終リザルトリストでは、必要であれば技術的援助を用いて、順位を確定しなければならない。同タイムでフィニッシュラインに達した選手が複数人いる場合は、写真判定ビデオを用いて、或いはフィニッシュ審判が決定を下す (514.2.5条)。技術機器を用いて選手の間に目に見える違いが無いと判断された場合、最終リザルトで同じ順位が与えられる。カップ大会においては、同じポイントが与えられる。クロスカントリー競技のスタート差は、ジャンプ競技で各チームが獲得した現時点で合計得点を基に計算する。
- 542.3 特別規則 (Special Regulation)
- 542.3.1 選択する5kmコースは2.5kmの周回コース2週とし、クロスカントリー競技に関するFISのコース公認ガイドラインに適合していなければならない。
- 542.3.2 ジャンプ競技の1つのラウンドでスタートをしなかった選手又は失格となった選手の得点はゼロとなる。
- 542.3.3 状況によって必要な場合は、グループごとにインランの長さを調節したり、ある特定のグループのジャンプ競技ラウンドをキャンセルしたり、スタートのやり直しを行ったりすることができる。
- 542.3.4 競技ラウンドで最終グループのスタート前に、インフォ・ブレイクがあり、そこで最終グループのスタートオーダーが、最新のスタンディングのリバースオーダー (逆順) で分けられる。第3グループの後の1位のチームが最後にスタートする。

543 チームスプリント (Team Sprint)

543.1 競技の実施 (Competition Realisation)

団体スプリント競技は、団体スキージャンプと短いコースを周回する2×7.5 kmのクロスカントリー競技から構成されている。各チームの選手は両選手とも、ジャンプとクロスカントリーに参加する必要がある。1チームは2名とし、2名とも両方の競技（スキージャンプ及びクロスカントリー）に参加し、競技を完了しなければならない。

543.2 計算 (Calculation)

計算は、条項527.2.3.2及び527.4.1に従って適切な距離 (m) 及び得点の値に基づいて行う。技術的な手助けが必要な場合、最終リザルトリストで順位は修正されなければならない。同タイムでフィニッシュラインに達した選手が複数人いる場合は、写真判定ビデオを用いて、又はフィニッシュ審判が決定を下す。(条項514.2.5)。技術機器を用いて選手の間に見える違いが無いと判断された場合、最終リザルトリストで同順位が与えられる。カップ競技会の場合、同じポイントが与えられる。

ジャンプのリザルトの計算は、2本のジャンプの平均である。各チームのこれらのポイントが、クロスカントリー競技のためのスタートタイム差の計算に使われる。

543.3 特別規則 (Special Regulations)

ジャンプ競技のスタート順は、現時点でのネーションズカップのランキングに基づく。

世界選手権大会やジュニア世界選手権大会の場合、各国1チームをスタートさせることができる。スタートナンバーは、ネーションズランキングの逆順に振り分けられる。ワールドカップやコンチネンタルカップの場合、参加チームは、特別イベントルールに基づかれる。

2×7.5 kmスプリントは、全長1500mを周回して実施する。1周ごとに選手は交替する。

参加チームの数は、競技会特別規則によって決定する。両方の選手がコースを2周した時点でエリミネーションモダスが開始され、最終位のチームは脱落となる。1ラウンドで脱落となるチームの数は競技開始前に決定し、最後の1周に最低でも7～10チームが残っているようにする。ワールドカップネーションズポイントは、競技から脱落した時点での当該チームの実際の順位に基づいて与えられる。各国1チームのみがポイントを与えられる。

選手交替エリアは、すべてのチームを準備エリア（幅1.5m、長さ2.5m～3m）に配置できるように設計しなければならない。各エリアはフェンスで囲み、選手交替エリアへの出口を設けるものとする。又、各チームが配置されるエリアは、準備された30m～40mのタグゾーン内の設けられる。滑走しない選手はこのエリア内で待機しなければならない。待機している選手はコーチの指示を受けたり、自

544 夏期における競技会 (Summer Competitions)

ノルディックコンバインド競技の競技会は夏期に実施できる。ジャンプ競技には、冬季の競技会で適用される規則と同じ規則が適用される。クロスカントリー競技では、冬季とは別の用具（ローラースキーやインラインスケート）を用いたり、ランニングレースを採用したりできる。インビテーションには、競技の形式とレース方法を記載しなければならない。

第4部 ノルディックコンバインドクロスカントリー関連表
(Tables for Nordic Combined Cross-Country)

550 タイム差の計算 (the Calculation of the Time Difference)

550.1 タイム差の計算におけるぶれをなくすために、次の原則を採用する。
550.2 クロスカントリー競技のスタート差はスキージャンプのリザルトに基づくものとする。この計算は、1点につき何秒又は1秒につき何点という形式で行うものとする。

550.3 計算は、小数点以下6位まで行う。これにより、各得点値の計算の精度が十分に確保される。小数点以下7位の値は無視する。従って、小数点以下6位の値は切り上げない。

例えば、
デフォルト = 1分につき45点
45点につき1分 = 45点につき60秒
60秒 : 45点 = 1.333333333秒 / 点 (小数点以下9位)
計算値 = 1.333333 (小数点以下6位)

550.4 タイム差の計算方法 (Procedure for the Calculation of the Time Difference)
タイム差の計算では、小数点第1位の0.5以上は1秒に切り上げる。

0.499999 = 0
0.5 = 1

550.5 タイム差の計算例 (Calculation Example for Time Difference)

得点差	1点あたりの秒数	結果	タイム差 (秒)
50, 0	1.333333	66.66665	67 (1 : 07)
22, 3	1.333333	29.73333259	30 (0 : 30)
22, 4	1.333333	29.333326	29 (0 : 29)

550.6 得点差の計算方法 (Procedure for the Calculation for the Point Difference)

得点差の計算では、0.05以上は0.1点に切り上げる。
0.0499999 = 0.0
0.05 = 0.1

550.7 得点差の計算例 (Calculation Example for Point Difference)

タイム差 (秒)	1秒あたりの得点	結果	得点差
41 (0 : 41)	1.333333	30.7500077	30,8
106 (1 : 46)	1.333333	79.5000199	79,5
188 (3 : 08)	1.333333	141.000035	141,0

551 基準値 (Table Value)

コース (km)	得点/分	秒/得点差
15	15	4.0
10	15	4.0
5	15	4.0
4×5km	45	1.333333
2×7.5km	30	2.0